

日本放射線医学発展に寄与  
貢献せし主たる物故者の略歴

日本医学放射線学会名誉会員  
京都府立医科大学名誉教授

後 藤 五 郎 編

## 後藤五郎、日本放射線医学発展に寄与貢献せし主たる物故者の略歴（日本医学放射線学会、1985）

		生没年	享年 <sup>1)</sup>	出身校	主な経歴 <sup>2)</sup>	放射線医学における功績 <sup>3)</sup>
1	朝山弘雄	1909-1983	74	東北帝大	東北大学放射線医学教室助手	放射線の生殖腺への影響の研究
2	阿部喜市郎	1880-1939	58	日本医学校	東京帝国大学(産婦人科)	子宮癌ラジウム治療成績1000例を報告
3	阿部謙彦(ケンヨウ)	1903-?		東京帝大	東京大学整形外科学、日本大学医学部物理科主任	股関節内臓症の研究
4	阿部費雄(タモウ)	1877-1945	68	東京帝大	台湾専攻教授(外科)、東京鉄道病院院長	日本レントゲン学会設立発起人、評議員
5	有馬英二	1883-1970	86	東京帝大	北海道帝国大学教授(内科)、病院長	肺結核、断層撮影の研究、第15回日本レントゲン学会会長
6	安藤画一(カケイ)	1885-1968	83	京都帝大	岡山大学教授、慶應義塾大学教授(産婦人科)	産婦人科レントゲン学、日本初のAIDに成功(1948)
7	石川数雄	1905-1982	76	九州帝大	九州大学助教授、主婦の友社社長	原爆の人体影響の研究
8	石川憲夫	1889-1963	73	東京帝大	慶應大藤浪剛一に師事、千葉医大教授(内科)、病院長	深部放射線治療の研究
9	板津三良(ミツ)	1901-1977	75	慶應大	慶應大理工学診療科講師、済生会中央病院物理科医長	気管支造影法、肺立体構造の研究
10	伊藤安彦	1932-1983	51	東北帝大	東北大講師(抗酸菌研究所内科)、川崎医大教授(核医学)	核医学の研究
11	稲田五郎	1907-1973	66	愛知医大	名古屋市立大学教授(放射線科、初代)、愛知医大教授(放射線科、初代)	心拍運動X線胸部撮影、高圧X線動脈診断の研究
12	今村荒男	1887-1967	79	東京帝大	大阪帝大教授(内科)、微生物物研究所長	肺結核の研究、日本初のBCG接種
13	岩井孝義	1894-1969	74	京都帝大	京都帝大教授(放射線科)	肺結核の研究、第16回日本レントゲン学会会長
14	岩佐健次	1897-1940	42	大阪帝大	大阪医大講師(理学診療科)	大阪医大理学診療科の創設に尽力
15	岩崎小四郎	1877-1947	70	東京帝大	軍医中尉(外科)、軍医總監、日赤病院レントゲン科主任	第5回レントゲン学会会長
16	浦野多門治(タモン)	1886-1954	68*	千葉医専	大阪回生病院レントゲン科部長、京都帝大講師	島津製作所レントゲン講習会講師として活躍、第10回日本レントゲン学会会長
17	江藤秀雄	1911-1983	71	東京帝大(物理学科)	東京帝大助教(放射線科)、日本原子力研究所理事	放射線障害、防護の研究
18	大高 誠	1890-1963	73	東京帝大	東京帝大物理内科副手、兵庫県立医専教授(内科、物理療法学)	放射線の人体影響の研究
19	小笠原紀三九	1906-1971	64	大阪帝大	和歌山医大教授(放射線科、初代)、病院長	家兔腫瘍に対する放射線効果の研究
20	緒方正清	1864-1919	55	東京帝大(別科)	緒方産婦人科病院院長	産婦人科医の草分け、骨軟化症のX線診断、理学療法
21	小澤清躬(キヨミ)	1885-1948	63*	岡山医専	神戸医師会ラジウム治療所主任	神戸初のレントゲン科を開業
22	片山国幸(クニキ)	1884-1962	77	東京帝大	東京慈恵医大教授(整形外科)	日本レントゲン学会評議員
23	加藤俊男	1902-1968	66	慶應大	慶應大学教授(放射線科)	神経放射線診断の草分け、日本神経放射線研究会設立
24	金子魁一(カイイチ)	1883-1953	70	東京帝大	東京女子医専教授(整形外科)	マッサージ療法の研究、第13回レントゲン学会会長
25	金田 弘	1906-1974	64	京都府立医大	信州大学教授、京都府立医大教授(放射線科)、病院長	頭部X線撮影法の研究、第29回日本医学放射線学会会長
26	亀田魁輔(カイスケ)	1897-1977	79	九州帝大	熊本医大教授(放射線科、初代)	リンパ管X線診断の研究、第12回日本医学放射線学会会長
27	河石九二夫	1895-1973	78	東京帝大	台北帝大教授、広島大学教授(外科)、学長	輸血学の草分け、原爆放射能医学研究所を創設
28	氣賀正巳(カキマサミ)	1915-1979	63	東京帝大	昭和医大教授(放射線科)	第13回放射線影響学会会長
29	北島 隆	1928-1977	49	弘前大	新潟大学教授、原子力委員会専門部委員	放射線障害、防護の研究
30	小池オー	1889-1933	44	金沢医専	順天堂医院で藤浪剛一に師事、金沢医専教授	胸部X線診断の研究、日本レントゲン学会評議員
31	古賀良彦	1901-1967	65	九州帝大	東北帝大教授(放射線科)、久留米大学長	胸部間接撮影法を発明、院内にX線学校を設立、第8回日本医学放射線学会会長
32	小林 幹(ミサオ)	1875-1934	59	東京帝大	海軍軍医少将、呉病院長	日本レントゲン学会評議員
33	近藤次繁(キンシヤ)	1865-1944	78	東京帝大	東京帝大教授(外科)	日本初の胃腸手術に成功、日本レントゲン学会発起人
34	齋藤大雅	1884-1937	52	九州帝大	京都帝大講師(浦野多門治の後任)	消化管、肺結核のX線診断、第11回日本レントゲン学会会長
35	齋藤 真	1889-1950	60	東京帝大	名古屋医大教授(脳外科)	気脳撮影、脳血管撮影を初めて施行、造影剤の研究、日本脳神経外科学会を創設
36	櫻井 孝	1918-1975	56	九州帝大	山口大教授(放射線科)	ベータトロン研究
37	塩田廣重	1873-1965	91	東京帝大	東京帝大教授(外科)、日本医大学長	腹部外科の権威、イレウス、輸血学の研究、老年学の草分け
38	重松 康	1925-1987	59	大阪帝大	大阪大学教授(放射線科)	放射線腫瘍学の研究、日本放射線腫瘍学会を創設
39	藤井金吾	1905-1966	60	東京医専	東京医大教授(外科)	気管支造影、肺癌のX線診断の研究、日本胸部外科学会長
40	嶋崎峻雄	1900-1981	81	大阪医大	大阪帝大講師(放射線科)、大阪通信病院長	日本放射線医学会評議員、日本医学放射線学会幹事
41	島津源藏	1869-1951	82		島津製作所社長(2代目)	蓄電池の発明、日本初のX線装置の製造販売、日本十大発明家の一人
42	島津フミヨ	1902-1967	65*	東京女子医専	東京女子医大教授(放射線科、初代)	連続撮影装置の開発、心臓血管造影法の研究、第24回日本医学放射線学会会長
43	白木正博	1885-1960	74	東京帝大	九州帝大教授、東京帝大教授(産婦人科学)	婦人科腫瘍の放射線治療法を確立、下体後葉の研究
44	神中正一(シンナカセイイチ)	1890-1953	63	東京帝大	九州帝大教授(整形外科)、医学部長	脊椎変形のX線診断、日本初の椎間ヘルニア手術、股関節外科の確立
45	末次逸馬(イツマ)	1899-1950	51*	京都帝大	長崎医大教授、京都帝大教授(放射線科、初代)	消化管のX線診断、胆嚢造影法の研究
46	鈴木元晴	1891-1959	68	愛知医専	順天堂藤浪剛一に師事、京城帝大教授(放射線科)	Osgood-Schlatter病のX線診断、瘻瘻、準丸へのX線照射の影響
47	鈴木寛之助	? -1925		金沢医専	海軍軍医中尉	結石のX線診断、瘻孔造影の研究、日本レントゲン学会発起人
48	住田正雄	1878-1946	67	東京帝大	九州帝大教授(整形外科)	骨関節結核、関節強直の手術法、第3回日本レントゲン学会会長
49	諏訪信吾	1909-1974	64	大阪帝大	日生病院院長(理学療法科)	放射線治療の研究
50	関 誠一郎	1897-?		東京帝大	日本大教授(整形外科)、横浜市立十全病院レントゲン部長	脳室造影の研究、日本レントゲン学会評議員
51	黒木嘉一(コシカス)	1891-1974	83	愛知医専	順天堂で藤浪剛一に師事、京都帝大整形外科レントゲン室	放射線技術師育成に貢献、日本レントゲン協会(日本放射線技術学会の母体)を設立
52	庄 風四郎	1881-1931	50	京都帝大	慶應大藤浪剛一に師事、九州帝大講師、中央レントゲン室主任	頭蓋底のX線診断、X線の血液への影響
53	高木憲次	1888-1963	75	東京帝大	東京帝大教授(整形外科)	骨盤のX線診断、関節鏡の開発、日本初の肢体不自由児施設を創設、第9回日本レントゲン学会会長
54	高橋 明	1884-1972	87	京都帝大	新潟医専教授(皮膚泌尿器科)、東京帝大教授(泌尿器科)	腎盂造影法、泌尿器X線診断の研究、日本レントゲン学会評議員
55	高橋左右平	1900-1961	60	東京帝大	日本医科大教授(放射線科)	消化管X線診断
56	高橋通彦	1879-1934	54	東京帝大	海軍軍医少将(外科)	ビタミン欠乏症に及ぼすX線、紫外線の影響、第8回日本レントゲン学会会長
57	瀧内政治郎	1907-1977	69	大阪市立工業高校	島津製作所、大阪大講師、熊本大講師	島津レントゲン技術講習所設立、日本放射線技術学会創立、同会長(二期)
58	竹島光蔵	1894-1944	49	岡山医専	岡山医科大講師、大阪回生病院X線科長	消化管X線診断、結核リンパ節のX線治療、日本レントゲン学会評議員
59	武田俊光	1899-1972	73	岡山医専	岡山医大教授、病院長	腹部X線診断、X線管球の研究、第6回日本放射線医学会会長、第13回日本医学放射線学会会長
60	武谷(タカ) 廣	1875-1941	65	東京帝大	九州帝大教授(内科)	放射線治療学講座の新設に尽力、第22回日本内科学会会長
61	田代義徳	1864-1938	74	東京帝大	東京帝大教授(整形外科)	日本の整形外科学の祖、第1、2、4回日本レントゲン学会会長、第1〜3回日本整形外科学会会長
62	田中正道	1898-1973	74	東京帝大(理学部)	東京放射線(株)取締役、駒澤短期大学教授	X線管球の開発
63	種村 式(イク)	1887-1923	35	愛知医専	愛知医大理学療法部長	X線生体作用の実験的研究、X線結核撮影
64	田宮知耻夫(チチウ) <sup>1)</sup>	1896-1966	70	東京帝大	新潟医大教授、横浜医大教授	食道のX線撮影、第18回日本レントゲン学会会長
65	田村春吉	1883-1949	66	東京帝大	愛知医大教授、名古屋医大教授(皮膚泌尿器科)、学長	X線深部療法、日本レントゲン学会発起人
66	塚本憲甫(ケンホ)	1904-1974	69	東京帝大	放射線医学総合研究所所長、国立がんセンター総長	頭頸部腫瘍のラジウム治療、第18回日本医学放射線学会会長
67	都築正男	1892-1961	68	東京帝大	東京帝大教授(歯科、外科)	硬X線治療、口腔外科領域のX線検査、原爆症の研究、日本放射線影響学会会長(初代)
68	寺崎忍助	? - ?		長崎医専	順天堂で藤浪剛一に師事、県立長崎病院理学療法科主任	ラジウム治療、学位論文(慶應大) 胎盤における格子状組織について
69	戸部龍夫	1918-1976	58	東京帝大	群馬大教授(放射線科、初代)、病院長	小児放射線医学、第1回日本小児放射線学会会長
70	土肥慶徳	1866-1931	65	東京帝大	東京帝大教授(皮膚科)	皮膚疾患のラジウム治療、日本の皮膚科学の草分け、第7回日本レントゲン学会会長
71	中泉正徳	1895-1977	81	東京帝大	東京帝大教授(放射線科、初代)、医学部長	放射線計測学、第14回日本レントゲン学会会長、第5回日本医学放射線学会会長
72	中島良貞	1887-1971	83	九州帝大	九州帝大教授(放射線科、初代)、医学部長	胃十二指腸のX線診断、肺腫のX線診断、第3回日本放射線医学会会長、第3回日本医学放射線学会会長
73	中原一臣	1915-1981	65	東京慈恵医大	東京慈恵医大教授	放射線被曝の研究、ICRP委員
74	永井 隆	1908-1951	43*	長崎医専	陸軍軍医中尉、長崎医大教授(物理療法科)	消化管のX線診断、食道のX線治療、尿路結石、耳石の研究
75	長橋正造	1887-1959	72	大阪高等医学校	大阪大教授(放射線科、初代)、千葉医専教授(外科)	放射線生物学、治療学、第2、7回日本放射線医学会会長、第4、6回日本医学放射線学会会長
76	長町 穂(アツシ)	1884-?		千葉医専	千葉医専教授(外科)	小腸閉塞症の診断、足骨折の診断、日本レントゲン学会評議員
77	増林和之	1912-1983	71	九州帝大	兵庫県立医大教授、神戸大教授(放射線科、初代)	肺結核のX線診断、胃造影剤の研究、第34回医学放射線学会会長
78	西岡時雄	1893-1984	87	大阪医大	大阪大教授(理学診療科)	結晶のX線回折分析、肺炎のX線診断、第11回日本医学放射線学会会長
79	西峯康雄(フナオ)	1927-1978	50	神戸医大	奈良県立医大教授(放射線科)	胸部X線診断、血管造影、リンパ管造影
80	野田昌成	1897-1982	84	九州帝大	大阪鉄道病院院長	鉄道員の健康管理、産婦産、日本医学放射線学会評議員
81	芳賀栄次郎	1864-1953	88	東京帝大	陸軍軍医学校校長、陸軍軍医總監	戦陣外科学、民間に先駆けてX線診断の臨床応用
82	花室憲幸(ケンシヨウ)	? -1940	*	岡山医専	慶應大藤浪剛一に師事、台湾総督府医専教授	胸部X線診断、骨X線診断、日本レントゲン学会評議員
83	林 信雄	1897-1964	67*	千葉医専	千葉医大講師、市立横須賀病院放射線科医長、院長	消化管運動、横隔膜痙攣の研究、肺結核の研究
84	早野常雄	1892-1961	69	千葉医専	倉敷中央病院物理科長、早野化学研究所所長	蛍光板の特許取得、蛍光板、増感紙、グリッド、防護手袋などを研究、製造
85	原 邦郎	1898-1946	48	千葉医専	慶應大講師、日本鋼管病院物理科医長	X線深部治療、放射線と免疫現象の研究、第2回日本医学放射線学会代理(藤浪病臥のため)
86	春名英之	1900-1964	64	慶應大	陸軍科学研究所技師、慶應大教授(放射線科)	心臓病のX線診断、肺結核の診断、第15回日本医学放射線学会会長

87	樋口助弘	1896-1958	62	九州帝大	東京慈恵医大教授(放射線科)。放射線医学研究所長	虫垂炎のX線診断。微量X線生体影響。実験的胃潰瘍の研究。 第17回日本レントゲン学会会長。第7回日本医学放射線学会会長
88	肥田七郎	1871-1923	85*	東京帝大	陸軍軍医学校長。陸軍軍医部長	リンパ腺結核のX線治療。外科へのX線応用。X線管の開発。日本レントゲン学会創設
89	平松 博	1909-1984	74	金沢医大	慶應大藤浪剛一に師事。金沢大教授(放射線科。初代)。 富山医科薬科大学長	X線の瓦斯代謝への影響。消化管のX線診断。第9回日本医学放射線学会会長
90	福田鶴一(ジュンイチ)	1890-1930	40	九州帝大(工学部)	熊本工業高等学校教授。島津製作所レントゲン研究課長	X線発生装置の開発。島津レントゲン技術講習所開設
91	藤浪剛一(コウイチ)	1880-1942	62	岡山医専	順天堂病院レントゲン科長。慶應大教授(理学的診療科。初代)	日本初の放射線科医。日本レントゲン学会創立。日本医史学会創立。 第1,4回日本放射線医学会会長。第2回日本医学放射線学会会長
92	藤浪修一	1904-1968	63	京都帝大	名古屋市立大教授(外科)。病院長	消化管のX線診断。腹腔造影法の研究
93	藤野守次	1902-1970	67	大阪医大	大阪医大教授(放射線科)	放射線生物学。第20回日本医学放射線学会会長
94	藤巻時男	1910-1982	72	慶應大	慶應大助教授(放射線科)。付属温泉治療学研究所主任	放射線治療学。温泉医学。気象医学。日本温泉科学学会会長
95	古谷湛夫	1891-1955	63*	岡山医専	順天堂で藤浪剛一に師事。小倉記念病院レントゲン科主任	バセドウ病のX線治療。放射線生物学
96	堀田慎一(チカユキ)	1890-1969	79	金沢医専	順天堂で藤浪剛一に師事。海軍軍医少将(外科)。舞鶴海軍病院長	リビオドール造影。戦傷のX線診断
97	保利 清	1889-1957	68	東京帝大	陸軍一等軍医。東京帝大講師。日赤中央病院レ線科主任	骨関節のX線診断。高等軟骨化骨の研究
98	前田清一郎	? -1968		東京医専	東京医専レントゲン科主任	リビオドール造影。気管支造影
99	横殿 順	1909-1969	60*	熊本医大	広島衛戍病院	広島医師会創設。日本初のレントゲン科開業
100	牧野利三郎	1901-1982	81	大阪府立医大	徳島県立医専教授(理学診療科)	X線動画撮影。間接撮影の研究
101	松岡道治	1869-1953	83	東京帝大	京都帝大教授(整形外科)	骨関節結核。先天股脱のX線診断
102	真鍋嘉一郎	1878-1941	63	東京帝大	東京帝大教授(内科。物理療法の療科)	ラジウム治療。ラジウム温泉。第12回日本レントゲン学会会長。第1回日本医学放射線学会会長
103	三浦謹之助	1884-1950	86	東京帝大	東京帝大教授(内科。神経学)	日本初のラジウム治療。内科学へのX線診断応用
104	三矢辰雄	1893-1962	69	愛知医専	名古屋帝大教授(泌尿器科)。付属病院物理療法の療科主任	X線深部照射。皮膚疾患のX線治療。尿路造影
105	三宅 寿	1906-0956	49	大阪帝大	徳島医大教授(放射線科)	頭蓋底撮影法。断層撮影法。肺吸虫症のX線診断。ラドン教育療法
106	宮地韶太郎(ショウタロウ)	1909-1954	45*	東北帝大	長崎医大教授	胸部X線診断。深部レ線撮影法
107	宮原立太郎(タツタロウ)	1878-1936	58*	千葉医専	聖路加病院レントゲン科部長。東京慈恵医大講師	肺結核のX線診断。腹部疾患のX線治療。深部治療。X線装置の研究
108	向井又吉	1883-1936	52	済生学舎	陸軍三等軍医。向井病院外科・レントゲン科担任	X線深部照射。日本レントゲン学会評議員
109	村地孝一 <sup>*4</sup>	1909-1961	52	東北帝大(生物学科)	理化学研究所所員。立教大学教授(理学部物理学科)	放射線生物学。サイクロトロンによる生物学研究
110	村松篤治	1892-1946	53	千葉医専	慶應大藤浪剛一に師事。金沢大講師。大久保病院レントゲン科医長	X線の血液への影響。胎児のX線診断。産科X線診断
111	室 馨造(ムロ ケイゾウ)	1888-1970	81	京都帝大(工科)	島津製作所電気部長。大日本レントゲン製作所会長	X線発生装置の研究。開発
112	本島柳之助	1892-1957	64	東京医専	慶應大講師。東京医大教授(放射線科。初代)	胸部X線診断。第10回日本医学放射線学会会長
113	山川保城(ネショウ)	1894-1941	47	東京帝大	癌研附属病院放射線科科長	癌のX線治療。ラジウム治療
114	山中太郎	1908-1959	50	満州医大	満州医大教授。日本医科大教授(放射線科)	肺結核のX線診断・治療
115	横井勝朗	1905-1973	67	京都府立医大	京都府立医大教授(放射線科)	骨関節疾患のX線診断
116	横倉誠次郎	1895-1956	60	東京帝大	海軍軍医少将。順天堂大教授	胸部間接撮影法。足部X線診断
117	渡辺 亮(タモリ)	1888-1955	66*	京都医専	順天堂で藤浪剛一に師事。大阪交通局病院院長	骨関節疾患のX線診断。第4回国際放射線学会(ストックホルム)日本代表
118	渡部 求	1891-1977	85	東工大(電気科)	後藤風雲堂電気製作所社長	X線装置の開発

\*1 享年欄\*を付したものは放射線障害による殉職者(岩佐誠。放射線障害物故者調査に関する報告。日本放射線技術学会雑誌 28:321-3,1972)

\*2 経歴。功績については、「後藤五郎：日本放射線医学史考(明治大正篇／昭和篇)」を参照して適宜改変。追加した

\*3 原資料では 田宮知聡夫

\*4 原資料では 村地 孝

## 序

このたび後藤五郎名誉会員が、「日本放射線医学発展に寄与貢献せし主たる物故者の略歴」を書いて下さった事は、我々学会員としては大変嬉しいことである。このような企画はたとえ誰かが作ったとしても、とても実現させ得るものではない。これは「日本放射線医学史考」を作られた後藤先生だから出来た仕事であることは、我々学会員が皆よく知っている所である。ただ今日までこのような仕事をお願い出来なかったのは、先生が御高齢であるが故の遠慮から来るものであった。ところが、このようなものを作りたいからという有難い御言葉を先生御自身から戴いて、先生が御元気である事に驚いたとともに、また、大変な喜びでもあった。

先生の御言葉にもあるように、今日の我学会は、ここにある諸先輩方の大変な御努力によって作られ、大きくなって来たものであり、本来ならばより詳しく書いて戴きたかったのであるが、残念ながら費用の点で、記述を大巾に縮めて、2人で1頁とさせて戴かざるを得なかった。しかしこれは、「日本放射線医学外史」とでも言えるもので、将来本学会の歴史を記述する人のためにも非常に参考になろう。

後藤先生の御努力に心からの感謝を捧げるとともに、今後の御壮健をお祈りし、合わせてこの続篇のお仕事を期待したい。

昭和六十年二月

日本医学放射線学会総務理事

野辺地 篤郎

## は し が き

「温故知新」は、学問発達の要諦であるという。わが国放射線医学の目ざましい今日の盛況も、一日にして成ったものではない。その根底や基礎に、今は亡き過去に於ける、又は最近までの、指導的立場にあった、先輩の偉大な存在を忘れることは出来ない。これら亡き指導者の業績に就ては、高橋信次先生及びその一門によって集大成された、「放射線医学日本文献索引集」にて、詳細に知ることが出来るので、これに譲ることにするが、自分はさきに拙著「日本放射線医学史考」の参考資料として、これら一部指導者の履歴書を蒐集したが、その後久しく、これを筐底に深く収め、陽の目を見ずに、今日に及んだ。現代の風潮として、ややもすると「知新」にのみに心を奪われ「温故」を顧みないきらいがあり、これら物故先輩の存在をも忘れ去られんとしている。自分はこれら故人を偲ぶよすがにと、筐底の履歴書に陽の当らん日の来らんことを、心ひそかに願っていたところ、今回篠原日本医学放射線学会長をはじめ、学会幹部諸氏の同情あるご理解のもと、学会の刊行物とせんとの決議をいただき、悦びに堪えない。勿論貢献度に境界を設定することは不可能であり、資料蒐集の難易により、貢献度の比較的低きA氏を掲げ、貢献度のより高きB氏を挙げ得なかったなどの不備の謗りをまぬがれぬと思うが、病老躯の牛歩執筆に免じ、ご寛恕を願いたい。終りにこの資料を得るには、ご本人、ご遺族、友人及び所属機関、所属学会、大学図書館など多方面からの多大なご支援を得、また前田盛正博士や藤井満博士のご助力によったことを深謝するものである。

## 目 次

- |           |          |          |
|-----------|----------|----------|
| 1 朝山 弘雄   | 2 阿部喜市郎  | 3 阿部 謙渉  |
| 4 阿部 昶夫   | 5 有馬 英二  | 6 安藤 画一  |
| 7 石川 数雄   | 8 石川 憲夫  | 9 板津 三良  |
| 10 伊藤 安彦  | 11 稲田 五郎 | 12 今村 荒男 |
| 13 岩井 孝義  | 14 岩佐 健次 | 15 岩崎小四郎 |
| 16 浦野多門治  | 17 江藤 秀雄 | 18 大高 誠  |
| 19 小笠原紀三九 | 20 緒方 正清 | 21 小沢 清躬 |
| 22 片山 国幸  | 23 加藤 俊男 | 24 金子 魁一 |
| 25 金田 弘   | 26 亀田 魁輔 | 27 河石九二夫 |
| 28 気駕 正巳  | 29 北畠 隆  | 30 小池 才一 |
| 31 古賀 良彦  | 32 小林 幹  | 33 近藤 次繁 |
| 34 斎藤 大雅  | 35 斎藤 眞  | 36 桜井 孝  |
| 37 塩田 広重  | 38 重松 康  | 39 篠井 金吾 |
| 40 嶋崎 敏雄  | 41 島津 源蔵 | 42 島津フミヨ |
| 43 白木 正博  | 44 神中 正一 | 45 末次 逸馬 |
| 46 鈴木 元晴  | 47 鈴木寛之助 | 48 住田 正雄 |
| 49 諏訪 信吾  | 50 関 誠一郎 | 51 瀬木 嘉一 |
| 52 荘 鳳四郎  | 53 高木 憲次 | 54 高橋 明  |
| 55 高橋左右平  | 56 高橋 通麿 | 57 滝内政治郎 |
| 58 竹島 光蔵  | 59 武田 俊光 | 60 武谷 廣  |
| 61 田代 義徳  | 62 田中 正道 | 63 種村 弼  |
| 64 田宮知恥夫  | 65 田村 春吉 | 66 塚本 憲甫 |
| 67 都築 正男  | 68 寺崎 忍助 | 69 戸部 龍夫 |
| 70 土肥 慶蔵  | 71 中泉 正徳 | 72 中島 良貞 |
| 73 中原 一臣  | 74 永井 隆  | 75 長橋 正道 |
| 76 長町 穆   | 77 檜林 和之 | 78 西岡 時雄 |

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 79 西峯 康雄  | 80 野田 昌威  | 81 芳賀栄次郎  |
| 82 花室 憲章  | 83 林 信雄   | 84 早野 常雄  |
| 85 原 邦郎   | 86 春名 英之  | 87 樋口 助弘  |
| 88 肥田 七郎  | 89 平松 博   | 90 福田 雋一  |
| 91 藤浪 剛一  | 92 藤浪 修一  | 93 藤野 守次  |
| 94 藤巻 時男  | 95 古谷 滋夫  | 96 堀田 慎之  |
| 97 保利 清   | 98 前田清一郎  | 99 楨殿 順   |
| 100 牧野利三郎 | 101 松岡 道治 | 102 眞鍋嘉一郎 |
| 103 三浦謹之助 | 104 三矢 辰雄 | 105 三宅 寿  |
| 106 宮地韶太郎 | 107 宮原立太郎 | 108 向井 又吉 |
| 109 村地 孝一 | 110 村松 篤治 | 111 室 馨造  |
| 112 本島柳之助 | 113 山川 保城 | 114 山中 太郎 |
| 115 横井 勝朗 | 116 横倉誠次郎 | 117 渡辺 完  |
| 118 渡部 求  |           |           |



## 1. 朝山弘雄

明治42年(1909) 5月16日 出生(岩手県)  
昭和58年(1983) 8月11日 逝去 74歳

### 略 歴

昭和12・3・ 東北帝国大学医学部卒業  
12・5・ 日本赤十字中央病院整形外科医員  
14・6・ 日本赤十字退職  
15・7・ 東北帝国大学放射線医学研究室勤務  
(皮膚病梅毒学教室助手)  
16・10・ 応召  
22・5・ 応召解除  
22・7・ 東北大学に復帰 放射線医学教室助手  
25・5・ 学位受領  
25・7・ 電々公社に就職 厚生局健康管理所長  
54・5・ 退任  
55・5・ 日本医学放射線学会名誉会員  
55・6・ 日本通信建設株式会社医務室(非常勤)  
58・8・11・ 逝去 74歳

## 2. 阿部喜市郎

明治13年(1880) 12月 日 出生(群馬県)  
昭和14年(1939) 3月30日 逝去 58歳

### 略 歴

明治35・ 日本医学校卒業  
41・ 医術開業試験通過  
大正13・1・ 学位受領(東京帝国大学)(子宮癌腫の  
ラジウム療法)  
13・ 東京市小石川区原町に産婦人科医院開  
業  
昭和14・3・30・ 逝去 58歳



### 3. 阿 部 謙 涉

明治36年（1903）3月8日 出生

#### 略 歴

- 昭和2・ 東京大学医学部卒業  
整形外科学教室入局，高木憲次教授に  
師事，放射線学を修む
- 4・9・ 日本大学医学部物療科主任
- 7・ 学位受領（東京大学）（青年性股内弯症  
に就て）
- 21・3・ 退職

### 4. 阿 部 資 雄<sup>たま お</sup>

明治10年（1877）4月10日 出生（大分県）

昭和20年（1945）5月27日 逝去 68歳

#### 略 歴

- 明治37・12・ 東京帝国大学医科大学卒業
- 38・2・ 東京帝国大学医科大学副手（佐藤外科  
勤務）
- 38・7・ 陸軍衛生勤務補助員 戸山原分院勤務
- 38・9・ 奏任官待遇
- 38・10・ 陸軍衛生補助員を解く
- 39・7・ 東京帝国大学助手（佐藤外科勤務）
- 44・9・ 台湾総督府医院医長兼台湾医専校教授
- 44・10・ 外科医長
- 大正5・8・ 休職 スイス国外科治療調査嘱託
- 7・8・ 帰国復職 外科医長
- 9・5・ 東京鉄道病院外科医長 レントゲン取  
扱
- 14・3・ 学位受領（東京帝国大学）
- 昭和10・5・ 東京鉄道病院副院長兼外科医長
- 11・7・ 東京鉄道病院長兼外科医長
- 14・9・ 勅任官待遇
- 17・10・ 退官
- 17・11・ 医務嘱託
- 20・5・27・ 逝去 68歳



5. 有馬 英二

明治16年(1883) 5月25日 出生(福井県)  
昭和45年(1970) 4月6日 逝去 86歳 脳軟化症

略 歴

明治41・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
42・3・ 東京帝国大学医科大学副手(青山内科)  
44・3・ 東京帝国大学医科大学助手  
大正2・10・ 朝鮮総督府医院医官  
5・ スイス留学  
6・12・ 朝鮮総督府医官兼京城医専教授  
9・7・ 学位受領(東京帝国大学)  
10・ ドイツ留学  
10・5・ 北海道帝国大学教授(内科)  
10・10・ 北海道帝国大学医学部附属病院長  
北海道帝国大学医学部長  
昭和7・ 欧州留学  
帰国後学術研究会議会員  
12・7・ 第15回日本レントゲン学会会長  
19・4・ 樺太医学専門学校校長兼任  
21・3・ 北海道大学教授定年退職  
21・4・ 衆議院議員当選  
23・5・ 北海道大学名誉教授  
25・6・ 参議院議員当選  
28・ 参議院議員当選  
34・ 国会活動より勇退以後結核学会創立・  
中央結核研究会会長・日本胸部疾患学  
会長として活動  
45・4・6・ 逝去(脳軟化症) 86歳



6. 安藤 画一

明治18年(1885) 10月31日 出生(大分県)  
昭和43年(1968) 11月30日 逝去 83歳

略 歴

明治44・11・ 京都帝国大学医科大学卒業  
45・1・ 同上副手 産婦人科  
大正2・1・ 同上講師  
3・8・ 岡山医学専門学校教授  
7・12・ 学位受領(東京帝国大学)  
11・8・ 欧州より帰国  
岡山医科大学教授(産婦人科)  
昭和2・2・ 欧米出張  
9・6・ 慶応義塾大学医学部教授  
13・5・ 万国産婦人科学会(アムステルダム)  
出張  
31・4・ 慶応義塾大学教授退職  
31・4・ 同上 名誉教授  
34 アムステルダム不妊学会副会長  
35 ブラジル医学会名誉会員  
36 ドイツ医学会名誉会員  
41・11・ 勲二等旭日重光章受章  
43・11・30・ 逝去(心筋梗塞) 83歳

その他 不妊学会理事長  
日本産婦人科学会名誉会員  
産婦人科レントゲン学, 間脳照射に努  
力



7. 石川 数雄

(旧姓井上)

明治38年(1905) 5月12日 出生(大分県)

昭和57年(1982) 4月27日 逝去 76歳 脳梗塞

略 歴

- 昭和6・3・九州帝国大学医学部卒業
- 6・4・九州帝国大学医学部副手嘱託  
放射線治療学教室に入局
- 10・2・九州帝国大学助手
- 10・3～12・11・ドイツ(フランクフルトアム  
マイン物理医学研究所)留学
- 10・9・学位受領(九州帝国大学)(悪性腫瘍の  
物質代謝に及ぼすレ線の影響に関する  
実験的研究)
- 12・5・九州帝国大学医学部講師
- 12・11・陸軍々医学校診療部嘱託(2年間)
- 16・2・九州帝国大学助教授
- 16・8・九州帝大附属医学専門部講師
- 20・7・同上 専門部教授兼九州帝大助教授
- 20・9～10・長崎市原爆被害調査及び診療班長  
として4回出張
- 21・3・九大助教授, 専門部教授退職願を提出  
東京市神田駿河台石川医院を開く
- 21・5・KK主婦の友社取締役社長に就任
- 21・6・九大助教授辞任
- 21・10・第5回日本医学放射線学会総会(伊東  
市)にて特別講演
- 50・11・勲三等旭日中綬章受章
- 52・6・社長退任取締役会長就任
- 52・6・28・発病
- 57・4・27・逝去(脳梗塞) 76歳



8. 石川 憲夫

明治22年(1889) 7月2日 出生(東京)

昭和38年(1963) 6月12日 逝去 73歳 肺癌

略 歴

- 大正4・東京帝国大学医科大学卒業  
東京大学物療内科入局
- 7・千葉医学専門学校講師兼務
- 7・千葉医専教授
- 10・千葉医大助教授兼附属専門学校教授
- 12・5・千葉医大助教授
- 昭和5・2・学位受領(東京大学)
- 7・10～12・5・千葉医大理学療法部長
- 9・7・千葉医大教授(第1内科)
- 30・6・千葉医大定年退職
- 30・6・同大学名誉教授
- 38・6・12・逝去(肺癌) 73歳



9. 板津<sup>み</sup>三<sup>よし</sup>良

明治34年(1901) 7月2日 出生(岐阜県)

昭和52年(1977) 4月19日 逝去 75歳

略 歴

- 昭和2・3・ 慶応義塾大学医学部卒業
- 2・4・ 同上助手 理学的診療科学教室勤務
- 6・4・ 同上 講師
- 8・2・ 学位受領
- 11・2・ 恩賜財団 済生会中央病院物療科医長
- 15・4・ 日本医学放射線学会 宿題報告 気管  
枝運動並に機能のレントゲン学的研究
- 43・4・ 済生会中央病院辞職
- 52・4・19・ 逝去 75歳

10. 伊藤安彦

昭和7年(1932) 2月18日 出生

昭和58年(1983) 5月8日 逝去 51歳

略 歴

- 昭和32・3・ 東北大学医学部卒業
- 33・4・ 東北大学抗酸菌研究所内科
- 35・11・ 文部教官助手
- 40・1・ 東北大学医学部講師  
アメリカオークリッジ原子力研究所に  
留学
- 42・11・ 東北大学医学部内科に復職
- 43・3・ 東北大学医学部講師
- 47・4・ 同大学抗酸菌研究所放射線科担当助教  
授
- 48・4・ 福島県環境医学研究所部長
- 49・9・ 川崎医科大学教授(核医学)
- 58・2・ 福島県立医科大学教授(核医学)核医  
学会理事
- 58・5・8・ 逝去 51歳



11. 稲田五郎

明治40年(1907) 1月2日 出生(名古屋市)  
昭和48年(1973) 5月6日 逝去 66歳 急性心不全

略 歴

昭和6・3・愛知医科大学卒業  
6・4・愛知医科大学副手嘱託(勝沼内科)  
8・11・名古屋医科大学助手  
11・1・学位受領(名古屋医科大学)(エレクトロカルデオグラムの研究)  
11・4・名古屋医科大学講師  
13・1・名古屋市八事療養所医長  
14・4・名古屋帝国大学医学部講師  
14・11・名古屋市療養所医長  
15・8・名古屋市民病院理学療法科部長心得兼内科勤務  
16・1・同上 部長兼 同上  
17・1・名古屋帝国大学臨時医学専門部講師  
18・2・名古屋市立女子高等医学専門学校講師  
18・4・同上 附属医院 理学診療科部長兼内科勤務  
23・7・名古屋女子医科大学助教授兼名古屋市立女子医学専門学校教授  
25・4・名古屋市立大学助教授  
25・9・名古屋市立大学病院理学診療科部長兼  
26・3・市立女子医学専門学校兼務を解く  
29・11・名古屋市立大学教授(放射線科)  
41・11・名古屋市立大学中央放射線部長兼  
45・3・名古屋市立大学退職 名誉教授  
48・4・愛知医科大学教授(放射線医学教室)  
48・5・6・逝去(急性心不全) 66歳



12. 今村荒男

明治20年(1887) 10月13日 出生(奈良県)  
昭和42年(1967) 6月13日 逝去 79歳 がん性腹膜炎

略 歴

大正1・12・東京帝国大学医科大学卒業副手嘱託  
3・11~5・12・伝染病研究所勤務  
10・3~14・5・伝染病研究所勤務  
11・7・学位受領(東京帝国大学)  
14・9・大阪府立医科大学教授附属病院肺癆科医長 第3内科医長  
昭和6・5・大阪帝国大学教授  
15・8・同大学微生物病研究所長 結核予防会理事  
18・12・学術研究会議会員  
20・4~22・4・奈良県立医学専門学校長  
21・12・大阪大学々長 3期8年間在任  
24・1・日本学術会議会員  
26・10・日本学士院会員  
29・12・大阪大学々長辞任, 同大学名誉教授  
34・8・大阪府立成人病センター所長  
35・11・文化功労者  
38・4・第16回日本医学会総会々頭  
39・11・勲一等瑞宝章  
42・6・13・逝去(がん性腹膜炎) 79歳



13. 岩井孝義

明治27年(1894) 5月3日 出生(滋賀県)  
昭和44年(1969) 1月6日 逝去 74歳 心筋梗塞

略 歴

大正10・7・ 京都帝国大学医学部卒業  
10・7・ 副手嘱託  
11・ 京大中央レントゲン室に入室(講師斎藤大雅氏)  
12・8・ 京都帝国大学助教授  
13・4・ 中央レントゲン室主任  
昭和2・11・ 理学的療法研究のため満2年間ドイツ国へ在留を命ぜらる  
3・3～5・5・ 海外留学  
3・10・ 学位受領(京都帝国大学)(移動性盲腸症に就て)  
7・4・ 第10回日本レントゲン学会総会 宿題報告 移動性長S字状部症  
8・7～8・8・ 満洲国へ出張  
13・4・ 第16回日本レントゲン学会会長  
16・3・ 京都帝国大学教授  
16・3・ 結核研究所員  
32・5・ 京都大学退官  
32・5・ 名誉教授  
32・5・ 京都府立洛東病院院長  
43・3・ 同上 退職  
43・4・ 滋賀県東浅井郡浅井病院院長  
44・1・6・ 逝去(心筋梗塞) 74歳



14. 岩佐健次

明治30年(1897) 10月29日 出生  
昭和15年(1940) 2月4日 逝去 42歳

略 歴

大正12・3・ 大阪医科大学卒業 直ちに医化学古武教授門下に入る  
13・ 同学理学診療科新設されるや長橋教授と共に創設の任に当る  
昭和7・ 学位受領(大阪医科大学)  
同学講師を嘱託  
12・ 長橋教授外遊中医長代理  
15・2・4・ 逝去 42歳



15. 岩崎 小四郎

明治10年(1877) 3月3日 出生  
昭和22年(1947) 6月9日 逝去 70歳 結核

略 歴

- 明治36・12・ 東京帝国大学医科大学卒業
- 37・1・ 軍籍に入る 陸軍々医学校教官
- 42・1・ 大学院入学 外科学研究(近藤外科)
- 44・1・ ドイツ駐在, プレスラウ, ゲッチング  
ン大学にて外科学・病理学研究
- 大正3・3・ 帰国 陸軍々医学教官(外科学及びレ  
ントゲン学) 近衛歩兵1連隊附
- 4・8・ 陸軍々医学校教官専任 輻射学担当  
軍陣外科兼任
- 5・3・ 輻射学専任
- 6・10・ 学位受領(東京大学) 肺炎結核に就き
- 7・9・ 東京第2衛戍病院長
- 7・9・ 済生会病院麹町分院レントゲン科医長  
職務取扱
- 12・ 日本レントゲン学会創立発起人, 幹事,  
評議員となる
- 13・ 陸軍々医監
- 昭和2・ 第5回日本レントゲン学会々長
- 3・ 陸軍々医総監 予備役編入
- 4・ 日本赤十字病院理学診療顧問
- 11・ 日赤病院レントゲン科主任
- 21・ 日赤病院退職
- 22・6・9・ 逝去(結核) 70歳



16. 浦野 多門治

明治19年(1886) 9月19日 出生(長野県)  
昭和29年(1954) 5月28日 逝去 68歳

略 歴

- 明治41・11・ 千葉医学専門学校卒業
- 41・12・ 千葉医専附属千葉病院助手(外科学)
- 43・7・ 新潟医学専門学校助手
- 45・3~大正3・12・ 欧州留学  
レントゲン学研修
- 大正4・2・ 岡山医学専門学校講師兼県病院副医長  
レントゲン診療に従事
- 5・10~昭和8・7・ 大阪回生病院レントゲン  
科長兼務
- 7・6・ 京都大学にて内臓レントゲン学研究
- 8・8~11・5・ 京大医学部講師(兼任)中央  
レントゲン室主任
- 10・12・ 倉敷大原紡績病院外科部長
- 11・2・ 再度欧州出張
- 11・7・ 学位受領(京都大学) 胃の形態及び運  
動
- 11・ 大阪回生病院に復帰
- 昭和2・9~20・4・ 島津レントゲン技術講習所講  
師
- 5・4~12・ 大阪高等医学専門学校講師
- 5・10~10・2・ 島津レントゲン技術講習所長  
事務取扱
- 7・4・ 第10回日本レントゲン学会々長
- 8・8~20・3・ 浦野レントゲン科医院開設
- 26・4・ 日本医学放射線学会名誉会員
- 29・5・28・ 逝去(心臓喘息及び脳軟化症)  
68歳

晩年 両手指の重篤なるレントゲン皮膚炎に  
より両腕関節より切断す



17. 江 藤 秀 雄

明治44年（1911）10月10日 出生（東京府）  
昭和58年（1983）5月27日 逝去 71歳

略 歴

昭和10・3・ 東京帝国大学理学部物理学科卒業  
10・9～13・1・ 私立東京鉄道中学教諭  
13・1・ 東京帝国大学助手（医学部及病院勤務）  
13・9・ 東京帝国大学医学部講師  
17・3・ 東京帝国大学医学部助教授  
23・8・ 医学博士の学位受領  
25～50・ 日本医学放射線学会評議員  
26・ 第10回日本医学放射線学会総会宿題報告担当  
32・8・ 科学技術庁放射線医学研究所へ出向  
障害研究部長  
40・12・ 放射線医学研究所科学研究員に昇任，  
障害基礎研究部長併任  
50・5・ 日本原子力研究所理事  
51・5・ 日本医学放射線学会名誉会員  
55・7・ 日本原子力研究所理事辞任  
56・11・ 勲二等端宝章  
58・5・ 正四位  
58・5・27・ 逝去 71歳



18. 大 高 誠

明治23年（1890）4月17日 出生（愛媛県）  
昭和38年（1963）5月30日 逝去 73歳

略 歴

大正5・12・ 東京帝国大学医学部卒業  
8・4・ 伝研技手 附属医院勤務  
7・5・ 東大副手 物療内科勤務  
8・8・ 兵庫県立病院第二内科医長兼物理的診療科医長  
13・6～14・11・ 兵庫県より欧米出張  
14・5・ 学位受領  
昭和19・5・ 兵庫県立医学専門学校教授 内科（血行器学）（物理療法学）  
21・1・ 同上退職  
21・4～25・1・ 厚生省地方技官  
23・7・ 健康保険神戸中央病院長  
30・5・ 退職  
38・5・30・ 逝去 73歳



19. 小笠原 紀三九

明治39年（1906）12月7日 出生（和歌山県）  
昭和46年（1971）4月2日 逝去 64歳

略 歴

- 昭和5・ 大阪医科大学卒業  
理療科長橋正道に師事
- 6・ 副手，助手，講師を経
- 8・ 堺市民病院
- 14・6・ 学位受領
- 14・ 奈良県信用組合協同病院レントゲン科  
長
- 20・ 和歌山医学専門学校講師
- 23・ 和歌山医大教授
- 33・ 和歌山医大附属病院長
- 37・4・ 和歌山医大辞職，市内に開業（丸正百  
貨店三階）
- 46・4・2・ 逝去 64歳



20. 緒 方 正 清  
（旧姓辰巳）

元治元年（1864）7月21日 出生（香川県）  
大正8年（1919）8月22日 逝去 55歳

略 歴

- 明治12・ 高松医学校卒業  
東京独乙語学校
- 20・ 東京帝国医科大学別科卒業
- 21～25・ ドイツ，オーストリア諸大学にて産婦  
人科研修，ドクトルメヂチーネの称号  
を得
- 25・ 大阪新町緒方病院産婦人科長及び大阪  
慈恵病院医学校々長となる
- 37・6・ 大阪今橋に私立婦人科病院及び産科院  
を設立経営す  
富山県佝僂病及骨軟化病の研究 富山  
県奇病論を著す
- 38・7・ 学位受領（東京帝国大学）  
爾来医術開業試験委員  
大阪慈恵院学校長  
助産婦養成所長  
府市会議員  
万国医学大会委員  
日本婦人科学会長  
府市医師会長  
私立衛生会副会頭  
結核予防協合理事
- 大正4・ 硬性放射線学を著す（緒方英俊共著）
- 8・8・22・ 逝去 56歳



21. 小澤清躬

明治18年(1885) 2月18日 出生(静岡県)  
昭和23年(1948) 9月4日 逝去 63歳

略 歴

- 大正3・10・ 岡山医学専門学校卒業, 第2内科教室勤務
- 4・11・ 同校医化学教室勤務
- 5・11・ 大阪市北区回生病院レントゲン科就職(科長 浦野多門治)
- 6・11・ 神戸市医師会付属ラジウム治療所新設主任として就職 理学的診療に従事
- 10・1・ 同所を辞し神戸市熊内橋通りにレントゲン科を開業
- 15・5・ 大阪医科大学専修科に入学 長橋教授に師事す
- 昭和3・5・ 同科退学 神戸市生田区中山手7丁目にレントゲン科開業
- 5・7・ 学位受領(大阪医科大学)  
以来レントゲン科開業を続ぐ
- 23・8・ 文化活動により兵庫県医師会より文化賞を贈らる
- 23・9・4・ 逝去 63歳



22. 片山<sup>くに</sup>国<sup>あき</sup>幸

明治17年(1884) 9月18日 出生(鎌倉市)  
昭和37年(1962) 2月16日 逝去 77歳

略 歴

- 明治43・12・ 東京帝国大学医科大学医学部卒業
- 43・12・ 東京帝国大学医科大学副手
- 44・3・ 東京帝国大学医科大学助手
- 大正2・1・ 三井慈善病院医員
- 2・2・ ドイツに留学 病理学, X線学, 整形外科を研究
- 3・11・ 欧州戦乱にて帰国
- 3・12・ 東京帝国大学医科大学講師
- 3・12・ 三井慈善病院光線療法科主任
- 5・9・ 東京市京橋区木挽町に私立片山病院を経営(大正12年大震災にて焼失廃業す)
- 11・2・ 東京慈恵会医科大学教授
- 11・3・ 泉橋慈善病院光線療法科部長退職
- 13・5~14・7・ 欧米に視察旅行(内務省社会局嘱託)
- 14・6・ 学位受領
- 15・2・ 同潤会啓成社参与を嘱託
- 15・6・ 同潤啓成社技師
- 昭和2・ 牛込に整形外科病院開設
- 6・4・ 日本整形外科学会々長
- 19・ 東京慈恵会医科大学教授退職
- 19・7・ 東京慈恵会医科大学名誉教授
- 21・4・ 日本整形外科学会名誉会員
- 37・2・16・ 逝去 77歳



23. 加藤俊男

明治35年(1902) 1月12日 出生(岐阜県)  
昭和43年(1968) 4月18日 逝去 66歳

略 歴

- 昭和3・3・ 慶応義塾大学医学部卒業
- ・4・ 理学的診療科助手
- 5・8・ 米国パサデナ, カルフォニア工科大学  
留学(1年間)
- 10・4・ 日本女子歯科医専講師
- 12・7・ 慶応大学医学部講師
- 12・7・ 学位受領(慶応大学)(胎児脊柱のレント  
ゲン学的研究)
- 18・4・ 理学的診療科講師のまま中島飛行機  
(株)東京病院レントゲン科医長  
日本女子歯科医学専門学校教授
- 24・5・ 米国スタンフォード大学, ロマリンド  
大学に留学
- 32・ 日本ワックスマン財団の結成に参画  
同常務理事, 理事長
- 39・10・ 放射線技師室々長
- 40・9・ 神経放射線学会設立
- 41・6・ 慶応大学医学部放射線医学教室助教授
- 41・12・ 慶応大学教授(放射線医学教室)
- 42・5・ 慶大医学部教授退職
- 42・5・ 神奈川歯科大学教授
- 53・4・18・ 逝去(クモ膜下出血) 66歳



24. 金子魁一

明治16年(1883) 2月 日 出生(仙台市)  
昭和28年(1953) 8月19日 逝去 70歳 脳軟化症

略 歴

- 明治41・12・ 東京帝国大学医科大学卒業
- 42・1・ 東京帝国大学副手 整形外科に勤務
- 大正3・3・ 三井慈善病院光線科主任
- 3・6・ 私立楽山堂病院副院長
- 12・ 日本大学歯科講師嘱託(レントゲン学  
担当)
- 13・ 東京女子医学専門学校教授 整形外科
- 15・1・ 学位受領(東京大学)
- 昭和10・4・ 第13回日本レントゲン学会々長
- 16・8・ 東京女子医専教授退職
- 16・9・ 東京女子医専名誉教授  
戦時中疎開先日本医療団高田病院(新  
潟)顧問  
その後東京マッサージ学校長
- 28・8・19・ 逝去(脳軟化症) 70歳



25. 金 田 弘

明治39年（1906）9月13日 出生（京都市）  
昭和49年（1974）11月10日 逝去 68歳 脳出血

略 歴

昭和7・12・ 京都府立医科大学卒業  
8・1・ 同大学副手，理学的診療科勤務  
8・5・ 同大学助手  
11・1・ 同大学講師  
12・7～15・10・ 応召  
16・7～18・3・ 応召  
19・1・ 京都府立医科大学助教授  
19・10・ 学位受領（京都府立医大）  
21・1・ 同大学助教授退任  
京都第一赤十字病院医長（レントゲン科）  
26・3・ 信州大学医学部教授  
33・4・ 京都府立医科大学教授  
放射線科部長  
34・6・ 第9回国際放射線医学会議（ミュンヘン市）に出席のため海外出張  
40・7・ ドイツハイデルベルヒ大学客員教授  
第11回国際放射線医学会議出席，アメリカ合衆国に出張  
41・7・ 京都府立医科大学病院長兼附属看護学院院长  
42・6・ 学長事務代理  
45・3・ 同大学教授退職  
45・4・ 厚生技官 国立舞鶴病院副院長  
48・4・ 同病院長  
49・11・10・ 逝去（脳出血）68歳



26. 亀 田 魁 輔

明治30年（1897）12月28日 出生（山口県）  
昭和52年（1977）7月22日 逝去 79歳

略 歴

大正13・3・ 九州帝国大学医学部卒業  
13・6・ 同武谷内科副手嘱託  
昭和2・5・ 武谷内科レントゲン診療主任嘱託  
5・1・ 九州帝国大学助手（放射線治療学）  
5・6・ 九州帝国大学講師嘱託  
6・12・ 熊本医科大学講師嘱託  
7・2・ 学位受領（九大）レントゲン放射の生体内無機塩類に及ぼす影響に関する実験的研究  
7・12・ 熊本医科大学助教授 理学療法科主任  
11・5・ 第3回日本放射線医学会総会宿題報告  
22・4・ 熊本医科大学教授 放射線治療学講座担当  
28・ 第12回日本医学放射線学会会長  
28・4・ 熊本大学（医学部）教授併任  
35・4・ 附属看護学校校長併任（2年間）  
38・3・ 定年退官 熊本大学名誉教授  
済生会熊本病院顧問  
熊本中央病院顧問  
日赤熊本病院顧問など  
45・11・ 勲三等旭日中綬章  
52・7・22・ 逝去 79歳 正四位



27. 河石 九二夫

明治28年(1895) 1月17日 出生(広島県)  
昭和48年(1973) 1月28日 逝去 78歳 膵臓癌

略 歴

大正10・7・ 東京帝国大学医学部卒業  
10・7・ 東大近藤(次繁)外科助手  
13・4・ 名古屋大学斎藤眞外科講師  
13・ 同大学助教授(外科学, レントゲン学)  
昭和3・11・ 学位受領(東京帝国大学)  
5・3~6・7・ ドイツ留学, 欧米見学  
13・2~24・8・ 台北帝大教授  
19・3~24・8・ 台北帝大附属病院長  
20・10~24・7・ 中華民国国立台湾大学教授兼  
国立附属病院最高顧問  
24・8・ 広島医科大学教授  
27・3・ 広島大学移管により広島大学教授  
27・4~31・3・ 広島大学医学部長 広島医科  
大学長兼任  
33・3・ 広島大学停年退職  
33・ 広島大学名誉教授  
33・6・ 河石病院開設  
29~31・ 第3回日本学術会議会員  
外科及び原爆関係諸委員  
44・4・ 勲2等瑞宝章  
48・1・28・ 逝去(膵臓癌) 78歳



28. 気 駕 正 巳

大正4年(1915) 9月20日 出生(東京都)  
昭和54年(1979) 1月19日 逝去 63歳

略 歴

昭和15・3・ 東京帝国大学医学部卒業  
15・4・ 東大医学部放射線科副手 中泉正徳教  
授に師事  
17・11・ 東大医学部放射線科助手  
18・8・ 東大外来診療所医長  
24・6・ 東大医学部講師  
25・6・ 学位受領(東京大学)  
25・12・ 昭和医科大学教授  
45・10・ 放射線影響学会第13回大会会長  
54・1・19・ 逝去 63歳



29. 北 昌 隆

昭和3年(1928) 5月6日 出生(青森県)  
昭和52年(1977) 6月6日 逝去 49歳 肺がん

略 歴

昭和27・3・ 弘前大学医学部卒業  
28・11・ 弘前大学助手(放射線)  
29・4・ ABCC 勤務  
32・1・ 名古屋大学助手  
33・12・ 学位受領(名古屋大学)  
35・7・ 名古屋大学講師  
38・2・ 名古屋市大助教授  
39・12・ 愛知県がんセンター病院放射線治療部  
長  
40・4・ 同上 研究所放射線部長を兼務  
42・9・ 新潟大学教授  
45・5・ 診療放射線技師国家試験委員  
48・2・ 学術審議会専門委員  
49・5・ 原電教賀被曝問題調査委員会委員  
50・1・ 原子力委員会専門部会委員  
日本医学放射線学会評議員  
日本癌治療学会評議員  
日本核医学会評議員  
日本肺癌学会評議員  
日本放射線影響学会幹事  
名古屋大学講師(非常勤)併任  
名古屋市立大学講師(非常勤)併任  
京都大学講師(非常勤)併任  
52・6・6・ 逝去(肺がん) 49歳



30. 小 池 才 一

明治22年(1889) 1月25日 出生(金沢市)  
昭和8年(1933) 10月15日 逝去 44歳 腸チフス

略 歴

大正1・11・ 金沢医学専門学校卒業  
石川県立金沢病院医員(神経精神科研究  
生)  
2・4・ 内科第1部医員  
5・5・ 理学的診療学研究のため約1カ年東京  
順天堂病院へ出張 藤浪剛一博士に師  
事  
6・4・ 県立金沢病院理学的診療部創設, 同部  
長  
7・9・ 金沢医学専門学校講師嘱託  
9・10~11・4・ 理学的診療学研究のため約2  
カ年慶応義塾大学医学部に出張  
11・12・ 金沢医学専門学校教授  
12・4・ 金沢医科大学助教授兼附属医学専門部  
教授  
13・3・ 学位受領(慶応義塾大学医学部)  
14・3・ 医学専門部教授庶官  
14・11・ 約2カ年欧米に留学  
昭和2・12・ 帰国  
8・10・15・ 逝去(腸チフス) 44歳



31. 古賀良彦

明治34年(1901) 7月24日 出生(福岡県)  
昭和42年(1967) 6月29日 逝去 65歳 肝障害

略 歴

- 昭和2・3・九州帝国大学医学部卒業(武谷内科に入局)
- 5・1・同医学部放射線治療教室に転ず
- 7・1・同医学部講師
- 7・7・学位受領(九州帝国大学)
- 7・10・九州帝国大学助教授
- 8・3・東北帝国大学講師
- 9・4・第9回日本医学会第29分科会にて宿題報告(レントゲン災害予防に就いて)
- 8・11・東北帝国大学助教授
- 11・4・第14回日本結核病学会総会にて(レ線深部撮影法及び間接撮影法の応用)を発表
- 13・4・第10回日本医学会第32分科会にて招請演説(レ線間接撮影法に関する研究)
- 17・1・東北帝国大学教授(放射線医学講座)
- 24・4・第8回日本医学放射線学会々長
- 25・4・日本医学放射線学会理事
- 27・東北大学医学部附属病院 X線学校長
- 28・7・国際放射線学会出席のため欧米に出張
- 33・8・第2回国際間接学会に渡欧
- 34・7~36・6・東北大学医学部附属病院長
- 39・3・東北大学停年退官
- 4・東北大学名誉教授
- 39・久留米大学々長
- 41・6・第12回国際放射線医学会名誉会長
- 42・6・29・逝去(肝障害) 65歳



32. 小林幹

明治8年(1875) 月 日 出生  
昭和9年(1934) 9月5日 逝去 59歳

略 歴

- 明治34・12・東京帝国大学医科大学卒業
- 35・5・海軍中軍医 大学院入学(近藤外科)
- 昭和2・予備役編入
- 9・9・5・逝去 59歳



33. 近 藤 次 繁

慶応元年（1865）12月1日 出生（松本市）  
昭和19年（1944）3月4日 逝去 78歳

略 歴

明治23・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
24・1・ 東大助手 東大附属第2医院勤務  
25・3・ 欧州留学 ストラスベルグ ベルリン  
ウィーン パリ大学  
28・9・ 帰国  
30・2・ 東大助教授  
31・6・ 東大教授 外科学第1講座担当  
32・11・ 学位受領  
38・8・ 私費欧米出張  
39・5・ 帰国  
大正10・4・ 東大附属医院院長  
13・4・ 同上 被免  
14・9・ 依願東大教授退任  
15・1・ 東大名誉教授  
昭和19・3・4・ 逝去 78歳 勲二等旭日章



34. 齋 藤 大 雅

明治17年（1884）6月15日 出生（京都市）  
昭和12年（1937）6月14日 逝去 52歳

略 歴

大正4・12・ 九州帝国大学医学部卒業 稲田内科に  
入局  
8・6・ 私費留学 スイス チューリッヒ大学  
シンツ教授教室を見学  
9・8・ 父君病氣重篤にて帰国  
10・4・ 京都市にレントゲンの内科医院 博采  
堂医院経営  
11・3・ 京都大学医学部講師嘱託中央レントゲ  
ン室隔日勤務  
13・4・ 京大医学部講師退職  
昭和3・ 学位受領（千葉医大）  
8・ 第11回日本レントゲン学会々長  
レントゲン技術専修学校講師  
12・6・14・ 逝去（直腸癌）52歳



35. 齋 藤 眞

明治22年(1889) 6月14日 出生(宮城県)  
昭和25年(1950) 1月20日 逝去 60歳 肺炎

略 歴

- 大正4・ 東京帝国大学医科大学卒業
- 6・3・ 愛知医専講師嘱託(外科)
- 8・3・ 愛知医専教授(外科)
- 9・5・ 私費欧州留学
- 11・7～13・1・ 欧米出張
- 12・ 学位受領(東京帝国大学)
- 13・ 名古屋医大教授(研究にレントゲン線  
応用多し)
- 昭和4・8・ ホノルル汎太平洋外科学会出席
- 8・2～8・8・ 欧米出張
- 21・2・ 名古屋帝大医学部附属医院長  
厚生女学部主事
- 24・5・ 第3回脳神経外科学会々長
- 25・1・2・ 逝去(肺炎)60歳



36. 櫻 井 孝

大正7年(1918) 11月27日 出生(大牟田市)  
昭和50年(1975) 9月27日 逝去 56歳

略 歴

- 昭和18・9・ 九州帝国大学医学部卒業
- 18・10・ 九州帝国大学大学院特別研究生(放射  
線治療学教室)(2年間)
- 20・10・ 九州帝国大学医学部講師嘱託
- 20・10・ 九州帝国大学講師嘱託を解かれ、研究  
嘱託
- 21・6・ 九州帝国大学医学部副手嘱託
- 23・2・ 国立大村病院理学科々長
- 23・4・ 山口赤十字病院放射線科医長
- 24・4・ 学位受与(九州大学)
- 26・7・ 山口県立医科大学講師(放射線医学)
- 26・9・ 山口県立医科大学助教授
- 29・11・ 山口県立医科大学教授
- 40・4・ 日本医学放射線学会総会にて宿題報告  
超高圧放射線(ベータートロン)治療
- 42・4・ 国立移管にともない山口大学教授(医  
学部)
- 44・3・ 放射線科専門医認定(特定第76号)
- 44・11～45・10・ 文部省在外研究員として米、  
英、独へ出張
- 50・9・27・ 逝去 56歳



37. 塩田 廣重

明治6年(1873)10月14日 出生(京都府宮津)  
昭和40年(1965)5月11日 逝去 91歳 脳軟化症  
肺炎

略 歴

明治32・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
33・ 病理学教室に入る  
34・ 外科学専攻(スクリバ, 近藤教授に師事)大学院, 助手, 助教授  
44・6・ 学位受領(東京帝国大学)  
大正6・ 東大分院長兼外科医長  
11・1・ 東大教授  
昭和3・1・ 日本医科大学長就任  
9・ 東大教授定年退職  
9・ 東大名誉教授  
・ 終戦後 厚生省医療局長  
内閣恩給局顧問医  
癌研究会々頭  
日本外科学会名誉会長  
日本老人学会名誉会長など  
24・ 日本学士院会員  
29・ 東京都名誉都民  
29・ 文化功労者  
35・1・ 日本医大学長退職  
38・ 日本医大名誉学長  
39・ 勲一等瑞宝章受章  
40・5・11・ 逝去(脳軟化症, 気管支肺炎)  
91歳



38. 重松 康

大正14年(1925)6月3日 出生(松山市)  
昭和59年(1984)7月20日 逝去 59歳

略 歴

昭和24・3・ 大阪大学医学部卒業  
26・6・ 大阪大学医学部助手放射線医学教室勤務  
34・4・ 学位受領(大阪大学)  
37・10・ 大阪大学医学部講師  
39・5・ アメリカ合衆国へ出張, ニューヨーク  
州立癌研究所において放射線治療研究  
診療に従事  
40・9~10・ 第11回 I.C.R.(ローマ)に出席, 欧州  
主要施設の放射線治療部門を視察  
40・12・ 第51回北米放射線学会(シカゴ)に出席  
40・12・ アメリカ合衆国における主要機関の放  
射線治療部門を視察  
40・12・ 帰国  
46・10・ 大阪大学医学部助教授  
48・10・ 大阪大学医学部教授  
55・11・ 大阪大学医学部評議員(2年間)  
57・4~58・4・ 第42回日本医学放射線学会会長  
58・2・ 学術審議会専門委員  
59・7・20・ 逝去 59歳



39. 篠井 金吾

明治38年（1905）10月10日 出生  
昭和41年（1966）9月3日 逝去 60歳 尿毒症

略 歴

昭和2・3・ 東京医学専門学校卒業  
6・7・ 東京医学専門学校助教授  
10・ 学位受領  
11・ 佐藤清一郎の外科学会宿題 気管支造影法を援助  
14・4・ 第17回日本レントゲン学会宿題報告  
14・ 佐藤清一郎と共同 外科学会宿題報告 肺壞疽外科  
19・4・ 東京医学専門学校教授  
23・ 東京医科大学教授  
23・ 日本胸部外科学会創立 麻醉学会発足 共に会長となる  
30・4・ 日本外科学会宿題（河合、石川共同） 肺腫瘍  
30・ 肺癌研究会発足 厚生中央病院長  
41・9・3・ 逝去（ギランバレー症候群、尿毒症）60歳



40. 嶋崎 敏雄

明治33年（1900）4月29日 出生（佐賀県）  
昭和56年（1981）8月31日 逝去 81歳

略 歴

大正14・3・ 大阪医科大学卒業  
14・4・ 大阪医科大学理学診療科入局  
15・1・ 大阪医科大学助手  
昭和5・7・ 学位受領（大阪医科大学）  
8・10・ 岐阜県病院理学療法科医長  
15・10・ 同上 辞職  
15・10・ 大阪帝国大学講師  
17・1・ 大阪通信病院放射線科部長  
27・10・ 日本電信電話総裁表彰を受く  
29・10・ 診療エックス線技師国家試験委員  
39・11・ 大阪通信病院長  
40・2・ 医師国家試験委員  
43・4・ 日本医学放射線学会名誉会員  
44・3・ 放射線専門医認定さる  
45・4・ 勲三等旭日中綬章を授かる  
46・12・ 大阪通信病院院長辞職  
56・8・31・ 逝去（心筋梗塞）81歳



41. 島津源蔵

明治2年(1869)6月17日 出生(京都市)

昭和26年(1951)10月3日 逝去 82歳

略 歴

明治27・ 初代源蔵氏死去  
 28・ 二代目源蔵を襲名(幼名梅次郎)  
 29・10・10・ X線実験成功  
 30・ 蓄電池開発  
 大正9・ 鉛粉製造法の特許 日本十大発明家として宮中に召さる  
 6～昭和14・ 島津製作所社長兼 日本電池KK(GS蓄電池)社長 各種レントゲン装置製作に努力  
 昭和26・10・3・ 逝去 82歳



42. 島津フミヨ

明治35年(1902)11月9日 出生(栃木県)

昭和42年(1967)12月31日 逝去 65歳 急性白血病

略 歴

大正13・10・ 東京女子医学専門学校卒業  
 13・11・ 同上 附属病院レントゲン科入局  
 13・11・ 2年間 泉橋慈善病院レントゲン科に於て研究  
 昭和5・10・ 1年間 陸軍々医学校レントゲン科に於て研究  
 7・4・ 東京女子医専助教授兼レントゲン科部長  
 17・4・ 東京女子医専教授(放射線科)  
 25・ 学位受領  
 26・2・ 旧制東京女子医科大学教授  
 27・4・ 新制東京女子医科大学教授  
 33・4・ 第17回日本医学放射線学会総会にて宿題報告  
 34・7・ 第9回国際学会出席(ミュンヘン)  
 39・5～40・4・ 第24回日本医学放射線学会会長  
 42・12・31・ 逝去(急性白血病)65歳



43. 白 木 正 博

明治18年(1885) 11月 3 日 出生(長野県)  
昭和35年(1960) 11月 2 日 逝去 74歳 狭心症

略 歴

明治44・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
産婦人科教室に入局  
45・9・ 東京大学大学院に入学  
大正4・3・ 東京大学産婦人科助手  
7・10・ 東京大学講師  
7・10・ 泉橋慈善病院産婦人科医長  
10・4・ 同上 辞任  
10・4・ 東京大学助教授  
10・5・ 学位受領(東京帝国大学)  
10・5・ 文部省海外研究生として渡欧(独, 英,  
佛)  
13・ 欧米より帰国  
東大産婦人科第2講座担当  
15・4・ 九州大学教授に転出  
昭和11・5・ 東京大学教授に就任 九大名誉教授  
21・10・ 同上 退職  
35・11・2・ 逝去(狭心症) 74歳

放射線に関する論著多数あり  
又門下より放射線研究者多数を出す



44. 神 中 正 一

明治23年(1890) 1月30日 出生(神戸市)  
昭和28年(1953) 7月 6 日 逝去 63歳

略 歴

大正3・12・ 東京帝国大学医科大学医学科卒業  
4・1・ 東京帝国大学医学科副手(整形外科)  
7・6・ 生理学教室に入る  
9・10・ 開業  
11・1・ 学位受領  
14・2~15・ 英, 独, 佛に留学  
15・5・ 九州帝国大学教授  
15・6・ 九大医学部附属病院長  
昭和18・6・ 軍事保護院専門委員  
20・9・ 九大医学部長  
20・9・ 原子爆弾災害調査研究特別委員会委員  
24・1・ 日本学術会議員  
25・7・ 九大教授退官  
25・10・ 日本学士院会員  
26・1・ 九大名誉教授  
27・5・ 大阪厚生年金病院院長  
28・7・6・ 逝去 63歳

その他 日本整形外科学会会長  
九大評議員  
学術研究会議会員  
医師国家試験委員  
医師国家試験審議会委員



45. 末次逸馬

明治32年(1899) 1月7日 出生  
昭和25年(1950) 3月22日 逝去 51歳 悪性貧血

略 歴

大正14・3・ 京都帝国大学医学部卒業  
15・3・ 長崎医科大学講師レントゲン科主任  
昭和3・3～5・8・ 海外留学ハンブルグ ホル  
ツェンに師事  
6・1・ 長崎医大助教授物理的療法科主任  
8・12・ 学位受領(京都帝国大学)  
15・3・ 長崎医大教授  
16・3・ 京大助教授 理学的診療科担当  
宿題報告  
20・3・ 京大教授 放射線科学講座担当  
25・3・22・ 逝去(汎骨髄症…貧血) 51歳



46. 鈴木元晴

明治24年(1891) 5月25日 出生(愛知県)  
昭和34年(1959) 12月15日 逝去 68歳 脳出血

略 歴

大正4・3・ 愛知県立医学専門学校卒業  
4・5～5・7・ 順天堂病院レントゲン科 藤  
浪剛一に師事  
5・12・ 東京市養育院に内科見学  
6・6・ 豊橋にてレントゲン専門医院開設  
11・4・ 朝鮮総督府医院勤務 レントゲン科主  
任  
13・ 宿題報告(オスグート, シュラッテル  
氏病につき)  
15・4・ 京城医学専門学校教授  
昭和2・1・ 学位受領(慶応義塾大学)  
3・ 京城帝国大学医学部助教授兼任  
5・1～6・5・ 欧米留学  
15・ 京城帝大助教授兼京城医学専門学校教  
授  
20・ 京城帝国大学医学部教授  
20・12・ 応召より復員豊橋に引揚  
21・6・ 豊橋にて再び開業  
27・ 日本医学放射線学会東海部会を名大三  
矢教授と主催  
34・12・15・ 逝去(脳溢血) 68歳



47. 鈴木 寛之助

不詳 出生  
大正14年4月23日 逝去

略 歴

明治29・11・ 第四高等学校医学部卒業  
大正6・11・ 学位受領（京都帝国大学）  
13頃・ 海軍々医学校長 海軍中将  
14・4・23・ 逝去

48. 住田 正 雄

明治11年（1878）3月 日 出生（兵庫県）  
昭和21年（1946）1月21日 逝去 67歳 栄養失調症

略 歴

明治35・12・ 東京帝国大学医科大学卒業 大学院にて外科学一般研究  
39・10・ 京都帝国大学福岡医科大学助教授  
41・ ドイツに留学  
45・7・ 九州帝国大学教授  
45・9・ 整形外科学講座を開講  
大正2・12・ 学位受領（東京帝国大学）  
14・8・ 九州帝国大学教授退職  
福岡市にて輔仁堂医院経営  
昭和2・ 大阪市住吉区阿倍野筋に開業  
16・2・ 大阪市東区北久太郎町開業  
後京都に移住  
21・1・21・ 逝去 67歳 栄養失調症



49. 諷 訪 信 吾

明治42年（1909）9月19日 出生（大阪市）  
昭和49年（1974）1月15日 逝去 64歳 喉頭がん

略 歴

昭和9・3・大阪帝国大学医学部卒業  
9・4・大阪帝国大学副手を嘱託  
9・5・大阪帝国大学医学部付属医院 理学的  
診療科に勤務  
12・4・日本生命済生会付属日生病院医員理学  
療法科勤務  
21・4・日生病院 理学療法科医長、後に放射  
線科部長  
23・3・大阪大学医学部勤務を解く  
31・1・日生病院副院長  
33・10・学位受領  
36・4・診療エックス線技師試験委員（2年間）  
40・9～10・第11回国際放射線学会（ローマ）  
に出席  
41・5・日本生命済生会理事  
41・9・日本生命済生会付属高等看護学院長  
42・7・カナダ各地訪問  
43・12・ヨーロッパ視察  
44・3・放射線科専門医認定証を受ける  
44・7・ソ連ヨーロッパ教育事情視察  
46・4・日生病院院長  
46・5・日本生命済生会常務理事  
49・1・15・逝去（喉頭がん）64歳



50. 関 誠 一 郎

明治30年（1897）6月2日 出生

略 歴

大正13・東京帝国大学医学部卒業  
副手嘱託 整形外科勤務 高木憲次に  
師事 レントゲン学の指導を受く  
14・東大医学部助手  
昭和2・第3回日本レントゲン学会総会にて宿  
題報告  
3・2・学位受領（東京大学）  
3・東大医学部整形外科講師嘱託  
3・4～4・8・日本大学医学部教授  
4・現職のまま横浜国立大学立全病院レントゲ  
ン部長  
8・11・東大医学部講師嘱託を辞す



51. 瀬木 嘉一

明治24年(1891) 7月25日 出生(三重県桑名)  
昭和49年(1974) 8月20日 逝去 83歳 再生不良  
性貧血, 老衰

略 歴

- 大正4・6・ 愛知県立医学専門学校卒業  
横浜市西川病院就職
- 5・8～8・10・ 順天堂病院藤浪剛一博士に師事
- 8・10～11・10・ 東大附属伝研研究生(病理学)
- 11・4・ 日本レントゲン学会入会
- 12・2・ エックス線技師有志にて蛍光会発足
- 11・10～14・10・ 京都帝国大学医学部整形外科  
レントゲン室勤務の傍ら病理学研究
- 14・10・ 学位受領(京都帝国大学)(レントゲン  
線に依る内分泌臓器と生殖腺との関  
係)
- 14・10・ 東京市神田区東福田町にてレントゲン  
科医院開業
- 昭和2・6・ レントゲン技師団にて日本レントゲン  
協会を創設
- 3・ 東京市神田区東今川町に移転開業
- 6・10～7・4・ 欧米医事視察旅行
- 38・4・ 日本医学放射線学会名誉会員
- 46・4・ 日本放射線技術学会名誉顧問
- 49・4・ 勲四等旭日小綬章 後に従五位
- 49・8・20・ 逝去(再生不良性貧血) 83歳

52. 荘 鳳四郎

明治14年(1881) 月 日 出生(山口県)  
昭和6年(1931) 12月30日 逝去 50歳

略 歴

- 明治41・ 京都帝国大学医学部卒業  
陸軍二等軍医 軍医学校入学  
日赤病院にて外科専攻
- 大正4・12・ 朝鮮総督府医院副医官
- 9・6・ 京城医学専門学校教授兼 朝鮮総督府  
医院医官 陸軍三等軍医正
- 9・11～11・6・ 欧米留学 ウィーン大学にて  
レントゲン学研究
- 10・ 朝鮮総督府群山慈恵医院長 その間慶  
応義塾大学医学部理療科に研究出張
- 13・ 群山に帰院 次で依願退職
- 14・1・ 九大医学部医院副手嘱託
- 14・10・ 九大講師嘱託 中央レントゲン室主任
- 15・6・ 学位受領(九州大学医学部)
- 15・7・ 九大医学部講師 中央レントゲン室主  
任辞職  
福岡市東中洲町に開業
- 昭和6・12・30・ 逝去 50歳



53. 高 木 憲 次

明治21年(1888) 2月9日 出生(東京)  
昭和38年(1963) 4月15日 逝去 75歳 脳軟化症

略 歴

大正4・12・ 東京帝国大学医学部卒業  
5・1・ 副手 整形外科勤務  
5・7・ 助手  
10・6・ 講師  
11・2・ レントゲン研究のため1年間ドイツに  
留学  
11・3・ 学位受領(東京帝国大学)(骨盤のX線  
像)  
12・3・ 整形外科科学研究のため半年間の留学延  
期を命ぜらる  
12・12・ 帰国  
13・7・ 助教授 東大中央レントゲン室主任  
13・10・ 整形外科講座担当  
13・12・ 東京大学教授  
昭和4・ 日本整形外科学会会長  
6・ 第9回 日本レントゲン学会会長  
11・ ドイツ整形外科学会名誉会員  
23・9・ 東京大学教授退職  
25・4・ 東京大学名誉教授 その後日本肢体不  
自由児協会会長 整肢療護園院長  
27・ 中央身体障害福祉審議会会長  
27・ 日本医科大学教授  
正三位勲一等瑞宝章  
38・4・15・ 逝去(脳軟化症) 75歳



54. 高 橋 明

明治17年(1884) 11月5日 出生(愛知県三河)  
昭和47年(1972) 3月12日 逝去 87歳 心筋梗塞

略 歴

明治42・11・ 京都帝国大学 福岡医科大学卒業  
東京帝国大学大学院に入学 土肥慶蔵  
教授につき皮膚科, 泌尿器科専攻  
大正2・3・ 大学院卒業  
2・ 渡欧  
5・2・ 新潟医学専門学校教授(皮膚科, 泌尿  
器科学)  
6・ 新潟医科大学教授 学位受領  
昭和2・7・ 東京帝国大学教授 泌尿器科学講座新  
設  
15・ 同 附属病院長  
17・ 同 医学部長  
19・ 泌尿器科のレントゲン図譜著述  
20・10・ 定年退官 東大名誉教授  
21・1・ 東京通信病院長  
23・~25・ 日本医師会長  
その他 日本泌尿器科学会名誉会長, 日本皮膚  
科学会名誉会頭, 通信医学協会名誉会  
員, 社会保障制度審議会委員, 中央社  
会保険医療協議会委員, 日本性病予防  
協会会長, 野口英世記念会理事長など  
45・ 正三位勲一等瑞宝章  
47・3・12・ 逝去(心筋梗塞) 87歳



55. 高 橋 左右平

明治33年(1900) 3月15日 出生  
明治36年(1961) 1月12日 逝去 60歳 胃がん

略 歴

大正15・ 東京帝国大学医学部卒業  
日本医科大学第1医院  
昭和9・ 日本医科大学教授  
10・ 日本医大第1医院レントゲン科部長  
10・ 学位受領(東京帝国大学)腸閉塞症の  
レントゲン検査  
11・ 日本医大第2医院レントゲン科部長兼  
務  
20・ 日本医大教授退職  
新居浜住友病院長  
36・ 1・ 12 逝去(胃癌) 60歳



56. 高 橋 通 磨

明治12年(1879) 8月9日 出生(愛媛県)  
昭和9年(1934) 1月17日 逝去 54歳 敗血症

略 歴

明治39・ 12・ 東京帝国大学医科大学医学部卒業 海  
軍々籍に入る  
大正4・ 9～6・ 大学院入学 外科学研究(近藤外  
科)  
8・ 約10カ年, 海軍々医学校教官 レント  
ゲン学及軍陣外科学  
12・ 10・ 欧米に出張 レントゲン界視察(初め  
てスタビリボルト輸入)  
昭和2・ 海軍々医少将  
5・ 第8回日本レントゲン学会々長  
5・ 現役を去り東京日本橋にて医院経営  
9・ 1・ 17・ 逝去(流感より敗血症) 54歳



57. 瀧内 政治郎

明治40年（1907）4月12日 出生（大阪市）  
昭和52年（1977）3月16日 逝去 69歳 膀胱がん

略 歴

大正15・3・ 大阪市立工業学校電気科卒業  
島津製作所入社 レントゲン研究課勤務  
昭和2・9・ 島津レントゲン技術講習所設立  
同所専任教員  
6・10・ 同所主事兼講師  
10・2・ レントゲン技術専修学校と改名  
同校主事兼講師  
17・11・ 日本放射線技術学会創立準備委員長  
18・3・ 日本放射線技術学会常任副会長  
22・4～26・4・ 初代正会長  
23・6・ レントゲン技術専修学校長  
25・4・ 日本放射線技師会長（二期）  
27・4・ 日本放射線技術学会名誉会員  
28・6・ 診療エックス線技師免許証第1号登録  
29・10・ 日本医学放射線学会評議員  
37・4・ 金沢大学医学部付属診療エックス線技  
師学校講師  
九州大学医学部講師  
39・3・ 島津製作所定年退職 同参与  
39・4・ 徳島大学医学部講師  
39・9・ 第3回国際放射線技術学会出席（ロー  
マ）  
40・4・ 大阪大学医学部講師  
熊本大学医学部講師  
42・9・ 第4回国際放射線技術学会名誉会員  
44・4・ 勲五等瑞宝章  
52・3・16 逝去（膀胱がん）69歳



58. 竹島 光蔵

明治27年（1894）8月11日 出生  
昭和19年（1944）1月15日 逝去 49歳 肺結核

略 歴

大正7・ 岡山医学専門学校卒業  
赤岩外科に入局，京大，岡山医大にて  
研究  
11・3・ 大阪市北区絹笠町大阪回生病院に就職  
12・ 岡山医科大学講師（赤岩外科）  
昭和3・ 九大にて研究  
3・ 学位受領（九州帝国大学）  
3・ 大阪回生病院 X 線科副科長  
4・ 大阪回生病院 X 線科長を辞し市内長  
堀橋筋一丁目に開業  
19・1・15・ 逝去（肺結核）49歳



59. 武田 俊 光

明治32年（1899）3月1日 出生（福岡県）  
昭和47年（1972）9月20日 逝去 73歳

略 歴

- 大正11・5・ 岡山医科大学附属医学専門部卒業
- 11・5・ 岡山医科大学副手
- 12・1・ 同大学附属医院レントゲン科技術嘱託
- 13・3・ 文部省在外研究員，ドイツ，オーストリア，アメリカに留学
- 昭和2・6・ 帰国
- 2・7・ 岡山医科大学講師
- 2・8・ 岡山医科大学助教授
- 6・2・ 学位受領（岡山医科大学）レ線生物作用機転
- 14・ 第6回日本放射線医学会々長
- 17・11・ 臨時附属専門部講師
- 20・1・ 文部省科学研究補助技術員養成所講師
- 21・3・ 岡山医科大学教授
- 25・11・ 国立愛生園厚生技官兼任
- 29・ 第13回日本医学放射線学会々長
- 31・4・ 広島鉄道局管理医務嘱託
- 31・10・ 岡山大学院医学科研究委員
- 32・4・ 岡山大学医学部附属診療エックス線技師学校長
- 32・6・ 岡山大学付属病院院長
- 32・6・ 岡山大学評議員
- 35・7・ 癌研究所実験治療部門主任
- 36・1・ 公立学校中国中央病院長
- 39・3・ 定年退職 岡大名誉教授
- 46・4・ 勲二等瑞宝章
- 47・9・20・ 逝去 73歳



60. 武 谷 廣

明治8年（1875）5月7日 出生（福岡県）  
昭和16年（1941）1月30日 逝去 65歳 脳卒中

略 歴

- 明治35・12・ 東京帝国大学医科大学医学部卒業病理学教室に入り，三浦守治，山極勝三郎両教授に師事す
- 36・12・ 同大学三浦内科教室に転じ三浦謹之助教授に師事す
- 38・2・ 京都帝国大学福岡医科大学助教授内科学第一講座分担（稲田龍吉，中金一両教授留学中）
- 39・10～42・1・ ドイツに留学，イギリスに出張
- 42・6・ 京都帝国大学福岡医科大学内科学第三講座担任
- 43・1・ 同上 大学教授内科学第二講座担任
- 43・10・ 学位受領
- 44・4・ 九州帝国大学医科大学教授（名称変更）
- 45・4・ 第11回日本神経学会総会にて宿題報告
- 大正8・4・ 九州帝国大学教授（官制改正）
- 11・8・ 福岡市立荒津病院顧問
- 12・1～13・12・ 同大学医学部附属医院院長
- 12・4・ 第20回日本内科学会総会にて宿題報告
- 14・4・ 第22回日本内科学会会長
- 昭和2・7・ 福岡市屋形原病院顧問
- 3・4・ 教授会にて放射線治療学講座の独立新設の必要を唱え実現に努力す
- 3・5・ 第16回満洲医学会にて特別講演
- 4・3～4・11・ 欧米各国に出張 その前後満洲，朝鮮，台湾に出張講演
- 10・6・ 九州帝国大学教授停年退職
- 10・7・ 同上大学名誉教授
- 16・1・30・ 勲二等旭日重光章  
逝去（脳卒中）65歳



61. 田代義徳

元治元年（1864）7月26日 出生（足利市）  
昭和13年（1938）12月1日 逝去 74歳 脳溢血

略 歴

明治21・11・ 東京帝国大学医科大学卒業外科専攻  
24・4・ 田代病院を創立経営  
26・8・ 大学院に入学 細菌学を研究  
33・6～37・3・ 欧州に留学 皮膚科学，整形外科学を研究  
36・9・ 東京帝国大学助教授  
37・9・ 学位受領（東京帝国大学）外科担当  
39・5・ 東京帝国大学教授 整形外科学開講  
41・2・ 三井慈善病院創立，同院長兼外科部長 光線科を独立  
43・ 第11回日本外科学会会長  
大正2・ レントゲン研究会創立  
5・6～6・8・ 外遊（戦傷外科，口腔外科視察）  
12・4・ 第1回日本レントゲン学会会長  
13・9・ 依願退官 東京帝国大学名誉教授  
13・ レントゲン東京地方会創立  
13・ 第2回日本レントゲン学会会長  
14・ 日本レントゲン協会会長  
15・ 第4回日本レントゲン学会会長  
15・ 第1回日本整形外科学会会長  
昭和2・ 第2回日本整形外科学会会長  
3・ 第3回日本整形外科学会会長  
6～8・ 泉橋病院長  
7・ 日本レントゲン学会名誉会員  
12・ 日本整形外科学会名誉会長  
13・12・1・ 逝去（脳溢血）74歳



62. 田中正道

明治31年（1898）10月20日 出生（東京市）  
昭和48年（1973）7月22日 逝去 74歳

略 歴

大正13・3・ 東京帝国大学理学部卒業  
13・4・ 東京電気会社（現在の東芝）へ入社 研究所勤務放射線の研究に従事  
昭和12・8～13・2・ 米国へ研究観察  
15・2・ 文部省学術会議物理学研究委員委嘱  
16・3・ 理学博士（東京帝国大学）  
17・2・ 東芝電灯照明研究所副所長  
18・1・ 海軍技術研究所嘱託  
18・12・ 陸軍嘱託  
19・6・ 学術研究会議班長委嘱  
20・2・ 東芝放射線工業研究所所長  
20・12・ 同社中央研究所物理部長  
28・10・ 同社理事  
30・11・ 東芝放射線（株）会社取締役  
33・12・ 同社常務取締役  
39・5～46・ 同社顧問  
42・4・ 駒沢短期大学教授  
39・6・～45・3・ 徳島大学医学部講師  
41・4・～44・3・ 東北大学医学部講師  
39・9・～44・3・ 千葉大学医学部非常勤講師  
39・7・～44・3・ 金沢大学医学部非常勤講師  
40・12・～42・3・ 埼玉大学工学部講師  
48・7・22・ 逝去 74歳



### 63. 種 村 式

明治20年（1887）11月16日 出生  
大正12年（1923）8月12日 逝去 35歳

#### 略 歴

明治42・ 愛知医学専門学校卒業  
大正5・ 愛知医専理学診療部嘱託，東大に留学  
眞鍋嘉一郎講師の指導を受く  
6・6・ 帰任 理学診療部長心得  
6・12・ 愛知医専講師嘱託  
9・ 愛知医科大学理学療法部長  
12・ 学位受領（京都帝国大学）  
12・8・12・ 逝去 35歳

### 64. 田 宮 和 聡 夫

明治29年（1896）2月2日 出生  
昭和41年（1966）2月14日 逝去 70歳

#### 略 歴

大正9・12・ 東京帝国大学医学部卒業  
稲田内科に副手として入局  
14・4・ 新潟医大助教授 レントゲン科独立  
14・11～昭和3・8・ ドイツに留学  
昭和3・8・ 学位受領（東京大学）  
3・9・ 新潟医大教授 レントゲン医学担当  
10・4・ 第13回日本レントゲン学会宿題報告  
15・4・ 第18回日本レントゲン学会会長  
18・12・ 陸軍司政長官 ジャカルタ大学附属病院  
院長  
21・6・ 新潟医大教授に復帰 横浜市立医学専門  
学校教授兼補  
23・3・ 横浜市立医学専門学校専任講師嘱託  
横浜市立医専附属十全医院内科医長  
23・9・ 横浜市立医学専門学校教授  
24・4・ 横浜医科大学教授  
24・6・ 横浜医科大学病院長並に内科医長兼  
27・3・ 横浜医科大学病院長を免ずる  
31・1・ 新潟大学名誉教授  
33・5・ 小田原市立病院長委嘱  
36・3・ 横浜市立大学医学部兼横浜医科大学動  
務を免ずる  
36・3・ 横浜市立大学名誉教授  
41・2・14・ 逝去（直腸がん）70歳



65. 田 村 春 吉

明治16年(1883) 4月 日 出生(東京府)  
昭和24年(1949) 5月11日 逝去 66歳 脳溢血

略 歴

明治43・ 東京帝国大学医科大学部卒業  
東京大学衛生学教室  
東京大学病理学教室  
東京大学皮膚科教室勤務  
大正5・8・ 愛知県立医学専門学校教諭兼県立病院  
皮膚科部長  
7・5・ 学位受領(東京帝国大学)  
8・7~11・4・ 海外(イギリス・スイス)留  
学 皮膚病, 花柳病研究  
12・4・ 愛知医科大学教授  
15・2~昭和2・11・ 愛知医大附属病院長  
昭和6・5・ 附属病院物理的療法科主任嘱託  
7・2・ 名古屋医大学長兼教授兼皮膚泌尿科教  
室部長兼物理的療法科主任  
9・12~10・1・ 香港及中華民国出張  
11・6~12・1・ 再度欧米出張  
14・4・ 名古屋帝大教授兼医学部長  
14・5・ 兼臨時附属医学専門部主事  
19・4・ 兼臨時附属医学専門部長  
21・1・ 名古屋大学総長 医学部長事務取扱  
24・5・17・ 逝去(脳溢血) 66歳



66. 塚 本 憲 甫

明治37年(1904) 9月16日 出生(東京)  
昭和49年(1974) 6月7日 逝去 69歳 胃がん

略 歴

昭和6・3・ 東京大学医学部卒業  
6・4・ 東大医学部稲田, 後坂口内科勤務  
16・11・ 癌研附属病院放射線科主任  
20・3・ 癌研戦災消失により解散  
20・6・ 東大医学部耳鼻科教室研究生  
21・8・ 癌研再開 附属病院放射線科部長  
22・12・ 学位受領(東京大学)  
29・6・ 第6回国際癌学会(サンパウロ)出席  
33・4・ 日本医学放射線学会理事  
33・4・ 18回日本医学放射線学会総会会長  
33・10・ 放射線医学総合研究所所長  
42・9・ 国立がんセンター病院長  
44・10・ 第12回国際放射線医学会議(東京)会  
長  
45・3・ 日本医学放射線学会名誉会員  
45・9・ 国立がんセンター総長  
48・10・ 第32回日本癌学会会長  
従三位勲一等瑞宝章授与  
49・6・7・ 逝去 69歳 胃がん

国際連合科学委員会には日本政府代表として昭和  
34・12以後9年間に12回出席  
国際放射線会議には第9回(昭和34・7 ミュンヘ  
ン)に, 第10回(37・8 モントリオール)に,  
第11回(40・9 ローマ)に, 第13回(48・10マ  
ドリッド)に日本主席代表として出席  
国外放射線学会名誉会員として伊, 米, 佛より推  
薦  
WHO 諸会議委員として屢々出席



67. 都築正男

明治25年(1892) 10月20日 出生(兵庫県)  
昭和36年(1961) 4月5日 逝去 68歳 肺癌

略 歴

大正6・12・ 東京帝国大学医学部卒業  
海軍軍医中尉  
8・12・ 海軍々医大尉  
10・4・ 横須賀海軍工廠附兼海軍技手養成所軍  
医長  
14・2・ 東大助教授  
14・2～昭和2・10・ 歯科学及び口腔外科学研究のため満2カ年間独米に出張  
15・8・ 学位受領(東京帝大)硬レ線の生物学的作用に関する実験的研究  
昭和2・ 東大教授 歯科学講座  
4・ 外科学講座担当教授  
8・ 兼海軍々医学校教官  
9・ 塩田教授後任として外科教授  
14・ 海軍々医少将にて予備後編入  
21・ 外科教授退職(公職追放令による)  
23・ 板橋に外科病院開設 都立病院長  
27・ 東大名誉教授  
29・ 日赤中央病院長  
34・ 日本放射線影響学会々長  
放射線審議会々長  
36・4・5・ 逝去(肺癌)68歳

68. 寺崎忍助

生年月日 不詳  
逝去年月日 不詳

略 歴

明治42・ 長崎医学専門学校卒業  
大正4・3・ 長崎病院より順天堂病院レントゲン科  
見学  
婦院の上長崎病院理学療法科主任  
8・ 福岡県遠賀郡戸畑町に開業  
昭和4・ 学位受領(慶応義塾大学)



69. 戸部 龍夫

大正7年(1918)2月25日 出生(宮城県)  
昭和51年(1976)5月17日 逝去 58歳

略 歴

昭和17・9・東京帝国大学医学部卒業  
17・9・海軍々医  
20・9・復員  
20・10・東京大学附属病院柿沼内科勤務(無給  
副手)  
23・10・東京大学附属病院放射線医学教室(中  
泉教授)助手  
25・4・群馬大学医学部助教授 レントゲン室  
勤務  
32・3・学位受領(東京大学)放射線の生物学  
的作用機序  
34・3・群馬大学医学部教授 放射線医学教室  
主任  
38・4・群馬大学附属病院長  
40・4・同上 任期満了  
42・9・文部省在外研究員  
42・12・帰国  
43・4・日本医学放射線学会総会宿題報告担当  
46・11・日本医学放射線学会臨床シンポジウム  
部会長  
51・5・17・逝去 58歳



70. 土肥 慶蔵

慶応2年(1866)6月9日 出生(福井県)  
昭和6年(1931)11月6日 逝去 65歳 直腸癌

略 歴

明治23・11・東京帝国大学試問完了  
24・7・卒業証書受領 第1医院外科助手  
スクリバに師事  
25・3・大学院に入学(外科学, 癩病研究)  
26・3・大学院退学  
26・5~31・1・欧州留学 独奥佛瑞伊に転学  
31・2・東京帝国大学医科大学助教授 皮膚病  
学, 梅毒学講座担任  
31・6・東京帝国大学教授  
32・3・学位受領(東京帝国大学)  
35・4~9・英国皇帝戴冠式参列随員として渡  
欧  
38~39年頃 レントゲン線を皮膚病治療に使用  
42・新築医院外来診療所に理学的療法室の  
一室を設く  
43・7~44・7・私費欧州に留学, ブラッセル  
万国ラジウム学会に出席 光線学を研  
究  
44・皮膚病学教室に理学的療法諸器械を輸  
入ラジウム療法開始  
大正14・8~15・1・ロシア, スペイン, アメリカ  
に視察出張  
15・6・東京帝国大学教授退職  
15・10・名誉教授  
昭和6・11・6・逝去(直腸癌肝臓転移)65歳



71. 中 泉 正 徳

明治28年(1895) 4月16日 出生(名古屋)  
昭和52年(1977) 2月10日 逝去 81歳 肺がん

略 歴

大正 8・12・ 東京帝国大学医科大学卒業副手  
10・4～14・4・ 同 大学院学生  
11・1～11・7・ 同 助手  
12・6～昭和 2・12・ 理化学研究所嘱託  
15・12・ 学位受領(東京大学)人の水晶体のX  
線吸収とスペクトル分析  
昭和 2・3・ 東京帝国大学医学部講師嘱託  
2・12～6・9・ ドイツに留学  
3・3・ 東京帝国大学助教授  
7・6・1・ 同大学附属病院にて放射線科教室  
の業務開始  
9・11・ 東京帝国大学医学部教授(放射線医学  
講座担当)  
13・7・ 厚生技師兼任  
13・11～22・5・ 千葉医科大学講師委嘱  
15・6・ 理研研究員委嘱  
25・7～9・ 第6回国際放射線学会出席  
27・5～28・7 東京大学医学部長併任  
28・7～10・ 第7回国際放射線医学会出席  
31・3・ 東京大学教授定年退職  
31・5・ 東京大学名誉教授  
31・5～39・6・ 米国原爆傷害調査委員会  
(ABCC) 副所長 後50・3迄顧問  
36・4・ 日本医学放射線学会名誉会員  
その他原爆, 原子力, RI 関係委員  
38・4・ ドイツレントゲン学会名誉会員  
41・ 正四位勲二等旭日章授与  
52・2・10・ 逝去(肺がん) 81歳



72. 中 島 良 貞

明治20年(1887) 4月9日 出生(長崎県)  
昭和46年(1971) 1月5日 逝去 83歳 心筋梗塞

略 歴

大正 3・12・ 九州帝国大学医科大学卒業  
武谷内科に入局  
12・6・ 学位受領(九州帝国大学)胃ならびに  
十二指腸潰瘍の発生と体質との関係  
14・2～昭和 2・4・ レントゲン学研究のため  
ドイツ, オーストリア, アメリカへ出  
張  
昭和 2・ 九州帝国大学医学部講師 中央レント  
ゲン室主任  
2・12・ 九州帝国大学助教授  
4・12・ 九州帝国大学教授 放射線治療学教室  
開設  
11・ 第3回日本放射線医学会々長  
18・ 第3回日本医学放射線学会々長  
19・ 九州帝国大学医学部附属病院長  
19・ 従四位勲三等瑞宝章  
21・ 九州帝国大学医学部長  
22・12・ 九州大学退官  
22・ 長崎県島原市中島医院開設 同顧問  
25・ 九州大学名誉教授  
30・ 長崎県教育委員  
30・ 長崎県教育委員長  
33・ 長崎県島原市中島病院開設  
36・ 同上 病院長  
46・1・5・ 逝去(心筋梗塞) 83歳



73. 中 原 一 臣

大正 4 年 (1915) 7 月 28 日 出生 (ハワイ)  
昭和 56 年 (1981) 1 月 13 日 逝去 65 歳

略 歴

- 昭和 9・6・ ハワイ, ヒロハイスchool卒業
- 昭和 13・4・ 東京慈恵会医科大学予科入学
- 16・4・ 東京慈恵会医科大学学部入学
- 19・9・ 東京慈恵会医科大学卒業
- 19・9・ 同附属病院放射線科助手
- 23・4・ 日本医学放射線学会評議員
- 25・9・ 学位受領 (東京慈恵会医科大学) 反復  
極微量散乱 X 線浴による生体の変調  
について
- 26・6・ 東京慈恵会医科大学講師
- 31・2・ 同上 助教授
- 35・10・ 米国 UCLA に留学
- 35・12・ 東京慈恵会医科大学教授
- 44・9・ 第11回 ICR (ローマ) 出席
- 45・2・ ICRR 委員
- 46・11・ アジア太平洋放射線学会 (オーストラ  
リア) 出席
- 56・1・ 13・ 逝去 (脳血管障害) 65歳



74. 永 井 隆

明治 41 年 (1908) 2 月 3 日 出生 (松江市)  
昭和 26 年 (1951) 5 月 1 日 逝去 43 歳

略 歴

- 昭和 7・3・ 長崎医科大学卒業
- 7・4・ 同上副手嘱託 (無給) 物理療法科勤務
- 7・6・ 同上助手
- 8・2・ 陸軍衛生部幹部候補生として入営 (満  
州事変に出動)
- 8・4・ 陸軍々医候補生を命し見習医官
- 8・5・ 陸軍二等軍医
- 9・5・ 予備役編入
- 9・6・ 長崎医科大学無給副手嘱託
- 9・12・ 同上助手
- 12・2・ 同上講師嘱託 (助手のまま)
- 12・2・ 陸軍々医中尉
- 12・7・ 支那事変のため応召各地戦闘に参加
- 15・2・ 召集解除
- 15・4・ 長崎医科大学助教授
- 19・3・ 学位受領 (長崎医科大学) 尿石の微細  
構造
- 21・1・ 長崎医科大学教授 附属医学専門部講  
師嘱託
- 23・8・ 休職
- 24・5・ 天皇陛下に拝謁 銀盃一組を賜わる
- 24・9・ 辞職
- 24・12・ 長崎市名誉市民の称号を受く
- 26・5・1・ 逝去 (白血病) 43歳



75. 長橋正道

明治20年(1887) 2月4日 出生(新潟県)  
昭和34年(1959) 11月3日 逝去 72歳 脳軟化症

略 歴

大正4・7・ 府立大阪高等医学校卒業  
生化学教室助手(古武弥四郎教授)  
府立大阪医科大学予科講師(物理化学)  
この間約1カ年東北大学理学部(本多  
光太郎教授)へ内地留学  
9～12・ 欧州に留学 主としてイギリス ケン  
ブリッジ大学で生理学を研究  
13・10・ 府立大阪医科大学講師(楠本内科)理  
学的診療科医長  
13・3・ 学位受領(府立大阪医科大学)磁氣的  
瓦斯分析  
14・4・ 府立大阪医科大学教授 理学的診療学  
講座担当(放射線医学教室開講)  
昭和7・ 大阪帝国大学医学部教授  
10・ 第2回日本放射線医学会々長  
12・6～13・8・ シカゴの第五回国際放射線学  
会に日本代表として出席  
15・ 第7回日本放射線医学会々長  
19・ 第4回日本医学放射線学会々長(中止)  
22・ 第6回日本医学放射線学会々長  
23・5・ 停年退職  
大阪大学名誉教授  
日本医学放射線学会名誉会員  
日本放射線技術学会名誉顧問  
34・11・3・ 逝去(脳軟化症)72歳

76. 長町 <sup>アツシ</sup> 穆

明治17年(1884) 12月1日 出生(香川県)  
逝去年月 不詳

略 歴

明治41・ 千葉医学専門学校卒業 外科専攻  
43・ 欧米に留学  
大正3・3・ 帰国  
千葉病院司療医 外科部勤務レントゲ  
ン科主任兼務  
千葉医専教授 外科  
11・4・ 学位受領(京都大学)  
13・ 東京市日本橋にて開業 外科及びレン  
トゲン科



77. 橋 林 和 之

大正1年(1912)10月17日 出生(京都市)  
昭和58年(1983)11月1日 逝去 71歳 脳出血

略 歴

昭和14・3・ 九州大学医学部卒業  
14・3・ 九大医学部放射線科入局  
14・5～15・7・ 軍医中尉として軍務に服す  
15・9・ 九大医学部放射線科副手  
19・9・ 同上 外来医長  
19・9・ 舞子病院院長参与  
20・8・ 兵庫県立兵庫医専講師(放射線科)  
20・12・ 学位受領(九州帝国大学)肺結核患者  
の喀痰胃液中結核菌培養に関する研究  
22・11・ 兵庫県立兵庫医専教授  
兵庫県立医大教授  
32・ 第16回日本医学放射線学会総会(野崎  
会長)シンポジウム「肺癌の診断と治  
療」にて肺癌の早期診断を担当  
38・ 第16回日本医学会総会講演“悪性腫瘍  
に対する放射線診断の進歩”  
39・3・ 欧米出張 第2回メキシコ放射線学会  
出席  
42・3・ 欧米出張 第3回メキシコ放射線学会  
出席  
44・4・ 神戸大学医学部教授  
44・10・ 日本肺癌学会会長  
49・4・ 第34回日本医学放射線学会々々  
49・10・ 日本脈管学会々々  
51・4・ 神戸大学退職 名誉教授  
51・4・ 兵庫県立病院がんセンター放射線医学  
顧問  
叙正四位勲三等旭日中綬章  
58・11・1・ 逝去(脳出血)71歳



78. 西 岡 時 雄

明治26年(1893)10月29日 出生(兵庫県)  
昭和56年(1981)6月15日 逝去 87歳

略 歴

大正10・3・ 大阪医科大学卒業 副手  
13・6・ 任助手 第一内科勤務(レントゲン室)  
昭和5・1～6・5・ 京城大学講師  
6・4・ 学位受領(大阪医科大学)(諸種アミノ  
酸のレントゲンクリスタログラ  
フィー)  
6・5～14・7・ 大阪帝国大学医学部講師 傷  
痕軍人白浜温泉療養所長  
18・9～20・4・ 陸軍軍政地教授 マニラ駐在  
大阪帝国大学講師嘱託兼務  
20・11・ 陸軍省廃止に伴い阪大講師に専任  
24・2・ 大阪大学教授理学診療科講座担任  
26・4・ 附属診療X線技師学校長併任  
28・4・ 第十一回日本医学放射線学会会長  
32・1・ 国立呉病院院長に出自  
32・3・ 大阪大学教授退官  
36・4・ 日本医学放射線学会名誉会員  
37・8～・10・ 第十回国際放射線学会出席  
(カナダ)  
38・4・ 国立呉病院高等看護学院々々併任  
42・7・ 国立呉病院院長退官名誉院長  
42・11・ 従三位勲二等旭日重光章受領  
56・6・15 逝去 87歳

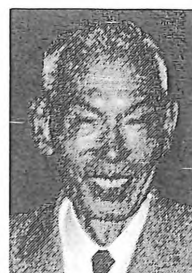


79. 西 峯 康 雄

昭和2年(1927) 8月2日 出生(神戸市)  
昭和53年(1978) 7月7日 逝去 50歳 肺がん

略 歴

昭和29・3・ 神戸医科大学卒業  
30・4・ 大阪鉄道病院にて実地修練修了  
31・1・ 神戸医科大学放射線医学教室入局  
35・4・ 神戸医科大学助手  
36・2・ 学位受領(神戸医大)  
36・5・ 安栗郡山崎町博愛病院放射線科部長  
37・4・ 神戸医科大学助手  
38・7・ 県立厚生女子専門学院講師  
40・7・ 神戸医科大学講師  
42・6・ 神戸大学講師 放射線科医局長  
神戸大学大学院医学研究科担当  
42・9・ 神戸大学医学部附属看護学校講師併任  
45・7・ 8・ 欧州研修旅行  
45・5・ 診療放射線技師 診療エックス線技師  
試験委員(2年間)  
46・2・ 神戸大学助教授  
47・5・ 神戸大学医学部附属病院中央放射線部  
副部長  
49・8・ 退職  
49・9・ 奈良県立医科大学教授 放射線科部長  
53・7・7・ 逝去(肺癌) 50歳



80. 野 田 昌 威

明治30年(1897) 6月13日 出生(鹿児島県)  
昭和57年(1982) 4月8日 逝去 84歳

略 歴

大正11・3・ 九州帝国大学医学部卒業  
11・6・ 神戸鉄道病院外科医員  
11・8・ 神戸鉄道病院内科医員  
14・6・ 神戸鉄道病院理学的治療科医長心得兼  
内科医員  
昭和3・10・ 神戸鉄道病院大阪に移り大阪鉄道病院  
と改称  
3・12・ 大阪鉄道病院理学的治療科医長  
7・12・ 学位授与(大阪帝大)  
20・11・ 大阪鉄道病院第一内科医長兼務  
21・7・ 大阪鉄道病院副院長  
23・10・ 新潟鉄道病院長  
27・3・ 依願退職  
大阪市東成区にて内科医院開業  
57・4・8・ 逝去 84歳



# 81. 芳賀 栄次郎

元治元年（1864）8月10日 出生（会津若松）  
昭和28年（1953）2月27日 逝去 88歳

## 略 歴

明治10・ 東京大学医学部予科5年入学  
20・ 東京大学本科卒業  
第1期大学院入学 外科専攻  
23・ 熊本師団に転任 外科部長  
26・ 秋 名古屋師団 陸軍病院に転出  
27・ 7・ 日清戦役に出征 第2野戦病院付  
27・ 12・ 大学院卒業  
29・ ドイツに駐留  
31・ 11・ 東京に帰着（シベリアを一人乗馬車にて単身半年を費し横断）  
陸軍軍医学校教官（軍陣外科学）  
32・ 学位受領（東京帝国大学）特発性脱疽の病理  
33・ 北清事変の際広島予備陸軍病院附外科主任  
37・ 第5師団（広島）軍医部長  
近衛師団第1師団を歴補  
39・ ジュネーブ赤十字條約国際会議に出席  
40・ 11・ 陸軍々医学校長  
大正3～10・ 現職のまま朝鮮総督府医院長  
5・ ～9・ 10・ 京城医学専門学校長兼任  
10・ 1・ 陸軍々医総監 予備役となる  
四谷区に東山堂医院を開設  
昭和8・ 9・ 西荻窪に隠居的に外・皮・泌を開業  
28・ 2・ 27・ 逝去 88歳

# 82. 花 室 憲 章

生年月日 不詳  
昭和15年（1940）2月8日 逝去

## 略 歴

大正9・ 岡山医学専門学校卒業  
慶応大学理療科藤浪教授に師事  
12・ 慶応大学を辞す  
12・ 台北医院理学的診療科に赴任  
15・ 台湾総督府医院医官兼総督府医学専門学校教授 レントゲン科部長  
昭和11・ 台北医院を辞し伝染病研究所に入り研究  
12・ 日本鋼管病院レントゲン科長  
15・ 2・ 8・ 逝去



83. 林 信 雄

明治30年(1897) 4月8日 出生(山形県)  
昭和39年(1964) 12月12日 逝去 67歳 胃癌

略 歴

- 大正8・5・ 千葉医学専門学校卒業  
柏戸内科に入局
- 10・3・ 京大に出張 浦野多門治(中央レントゲン室)に師事
- 11・5・ 千葉医専に帰学 内科レントゲン室新設
- 12・4・ 千葉医科大学に昇格 引続き内科レントゲン室勤務
- 12・6・ 名古屋市株式会社愛知理学療法所長
- 13・12・ 名古屋市医師会附属理学療法部治療部と名称変更, 同部長
- 15・6・ 千葉医大助手 附属医院レントゲン科主任
- 昭和5・4・ 学位受領 アスナールの中樞神経作用
- 8・5・ 千葉医大講師
- 8・11・ 市立横須賀病院内科医長兼レントゲン科医長
- 16・12・ 市立病院内科医長を辞しレントゲン科医長専任
- 19・1・ 横須賀市小児保健所兼務
- 23・1・ 市立横須賀病院長井分院長 本院放射線科医長併任
- 24・10・ 市立横須賀保健所長併任
- 27・5・ 市立横須賀保健所長解任
- 27・ 鶴岡市名誉市民
- 28・4・ 市立野比臨海療養所嘱託
- 37・12・ 市立病院関係を退職
- 39・11・ 従五位勲四等旭日小綬章授与
- 39・12・12・ 逝去(腹部腫瘍胃癌) 67歳



84. 早 野 常 雄

明治25年(1892) 3月31日 出生(埼玉県)  
昭和36年(1961) 9月17日 逝去 69歳

略 歴

- 大正6・5・ 千葉医学専門学校卒業  
日赤本社病院外科
- 9 京大附属病院にてレントゲン研究(浦野多門治に師事)
- 11・ 岡山倉敷中央病院放射線科初代医長
- 11・1~12・3・ 欧州留学
- 12・6・ 倉敷中央病院物理科長
- 昭和3・2・ 学位受領(京都帝国大学) 第1肋軟骨における関節形成に関するレントゲン学的研究
- 4・2~6・5・ 欧米留学 蛍光物質研究  
商工省工業技術院大阪工業試験所研究室にて研究
- 8・10・ レントゲン用蛍光板特許取得
- 11・ 大阪府下に早野化学研究所開設 レントゲン用蛍光板, 増感紙製造
- 20・ 大阪市島瀉病院レントゲン科医長
- 32・ 宝塚市に早野化学研究所開設, リスホルムブレンデ, 胃造影剤, 防禦用手袋製造
- 36・9・17・ 逝去 69歳



85. 原 邦 郎

明治31年（1898）3月13日 出生（岐阜県高山市）  
 昭和21年（1946）4月16日 逝去 48歳 発疹チフス 腎炎

略 歴

大正14・ 千葉医学専門学校卒業  
 慶応義塾大学医学部理学的診療科（藤浪教授）入局  
 昭和7・2・ 学位受領（慶応義塾大学）レントゲン  
 深部量に関する2,3の実験並に所見）  
 11・3・ 慶応大学医学部講師  
 同愛病院理療科医長  
 日本鋼管病院理療科医長  
 19・12・ 高山市に開業  
 21・4・16・ 逝去（発疹チフス 腎炎）48歳



86. 春 名 英 之

明治33年（1900）1月5日 出生（埼玉県）  
 昭和39年（1964）11月10日 逝去 64歳 腎腫瘍

略 歴

大正14・3・ 慶応義塾大学医学部卒業  
 14・4・ 同上助手（理学的診療科）（藤浪剛一教授）  
 昭和4・1・ 同上講師（理学的診療科）  
 5・12・ 学位受領（慶応大学医学部）心臓のレントゲン研究  
 12・6・ 陸軍科学研究所技師嘱託  
 中島飛行機会社太田病院理療科医長  
 18・ 慶応義塾大学医学部教授  
 31・4・ 第15回日本医学放射線学会々長  
 39・11・10・ 逝去（腎腫瘍）64歳



87. 樋口 助弘

明治29年(1896) 4月7日 出生(新潟県)  
昭和33年(1958) 8月9日 逝去 62歳 膵臓がん

略 歴

- 大正11・3・九州帝国大学医学部卒業
- 11・4・北里研究所
- 11・9・九州大学医学部副手 法医学教室勤務
- 11・11・九州大学医学部助手(法医学)
- 15・2・九州大学医学部講師(法医学)
- 昭和2・3・学位受領(九州大学医学部)人の血球凝集素ならびに血球溶解素に就て
- 3・4～4・12・レントゲン学及び物療学研究のため独逸に留学
- 4・12・依願九大講師免ぜらる
- 5・3・九大医学部副手(内科学)
- 5・12・依願九大副手放免
- 5・12・東京慈恵会医大助教授 放射線物療科学
- 7・12・同上大学教授
- 9・4・第12回日本レントゲン学会宿題報告(虫様突起のレントゲン学的研究)
- 13・4・第17回日本レントゲン学会々長
- 22・4・第6回日本医学放射線学会宿題報告(胃潰瘍症の診断ならびに治療)
- 22・4・第7回日本医学放射線学会々長
- 25・5・日本医学放射線学会総務理事
- 32・7・科学技術庁放射線医学研究所長
- 33・8・9・逝去(膵臓癌)62歳



88. 肥田 七郎

明治4年(1871) 6月12日 出生(山梨県)  
大正12年(1923) 10月4日 逝去 52歳 悪性貧血症

略 歴

- 明治32・7・東京帝国大学医科大学卒業 直ちに軍籍に入る(近衛歩兵第1連隊付)
- 33・1・東京帝国大学外科副手 近藤次繁教授に師事
- 34・3・台湾総督府台北医院外科主任 総督府医学校講師
- 37～38・日露戦争に従軍(小倉衛戍病院付→佐倉→横須賀)
- 41・陸軍々医学校教官 レントゲン学及び理学的治療に関する講座新設 第二東京衛戍病院長
- 43～44・7・歐洲に派遣され レントゲン、ラジウム診療に関し研究視察
- 大正2・レントゲン研究会創立
- 3・11・陸軍々医学校より熊本第6師団軍医部長
- 4・6・依願予備役編入 東京市麴町平河町に開業(陸軍一等軍医正 正五位勲三等功四級)
- 5・6・学位受領(東京帝国大学)外科的結核のレントゲン療法
- 5・東京市麴町区平河町より日本橋区松島町に移り大正9年病院改築
- 12・4・日本レントゲン学会創立
- 12・9・関東大震災に罹災 以来健康を害す
- 12・10・4・逝去(悪性貧血症)52歳



89. 平 松 博

明治42年（1909）12月16日 出生（金沢市）  
昭和59年（1984）6月11日 逝去 74歳 心筋梗塞

略 歴

昭和8・3・ 金沢医科大学卒業  
8・3・ 金沢医科大学副手  
9・4・ 金沢医科大学助手  
9・10～11・4・ 慶大及び阪大へ内地留学  
11・5・ 金沢医科大学助教授 理学的診療科主任  
12・5・ 学位受領（慶応義塾大学）  
15・10～18・11・ 応召  
19・4・ 金沢医科大学附属医専教授兼任  
20・3・ 金沢医科大学教授  
23・4・ 第7回日本医学放射線学会総会にて宿題報告を担当  
24・5・ 金沢大学金沢医科大学教授  
25・4・ 第9回日本医学放射線学会総会々長  
31・4・ 附属診療X線技師学校長兼任  
31・7～・10・ 欧米視察（第8回国際放射線学会出席）  
33・4～35・3・ 金沢大学附属病院院長を兼任  
43・9・ 附属病院核医学診療科長併任  
43・11・ 第8期46・11第9期日本学会議員  
45・10・ 第10回日本核医学会々長  
48・9・ 金沢大学医療技術短期大学部主事併任  
50・4・ 金沢大学名誉教授  
50・10・ 富山医科薬科大学長  
57・4・ 任期満了退職 富山医科薬科大学名誉教授  
正三位勲二等旭日重光章  
59・6・11・ 逝去（心筋梗塞）74歳



90. 福 田 雋 一

明治23年（1890）9月28日 出生（大分県）  
昭和5年（1930）10月19日 逝去 40歳 腸チフス

略 歴

大正4・7・ 九州帝国大学工学部電気工学科卒業  
4・7・ 熊本高等工業学校講師  
5・9・ 熊本高等工業学校教授  
9・3・ 島津製作所入社技師に任 本店電気部長を経て三條工場電気課長  
11・11・ 欧米レントゲン界視察出発  
12・8・ 帰国 三條工場技師長兼レントゲン工作課長  
14・12・ レントゲン研究課長  
昭和2・9・ 島津レントゲン技術専修学校開設 同所長  
5・ 日本レントゲン学会宿題報告（レ線装置の波形的研究）  
5・10・19・ 逝去（腸チフス）40歳



91. 藤 浪 剛 一

明治13年(1880) 6月7日 出生(名古屋市)  
昭和17年(1942) 11月29日 逝去 62歳 高血圧症

略 歴

- 明治39・ 岡山医学専門学校卒業 病理学研究
- 41・ 東京帝国大学医科大学皮膚科介補 土肥慶蔵教授に師事兼伝染病研究所技手
- 42・ 3～45・ 1・ ウィーン大学にてホルツクネヒト, キーンベック, ラングにつきレントゲン学を研究
- 45・ 5・ 東京順天堂病院にレントゲン科創設
- 45・ ドイツ レントゲン学会正会員に推薦
- 大正2・ レントゲン研究会創立
- 4・ 学位受領(東京帝国大学) 空虚胃に於ける液分泌のレントゲン検査による一簡易法について
- 4・ 医理学療法雑誌創刊
- 9・ 7・ 慶応義塾大学医学部教授
- 12・ 日本レントゲン学会創立 幹事
- 13・ 海軍々医学校講師兼職
- 昭和2・ 日本医史学会創立 理事 後理事長
- 8・ 日本放射線医学会設立 幹事
- 10・ 日本温泉気候学会創立 理事
- 12・ オーストリア レントゲン学会名誉会員
- 15・ 日本医学放射線学会設立 幹事
- 16・ 第2回日本医学放射線学会会長
- 16・ 日本温泉科学学会創立 副会長
- 16・ 日本医史学会理事長
- 17・ 11・ 29・ 逝去(高血圧症, 狭心症) 62歳



92. 藤 浪 修 一

明治37年(1904) 2月21日 出生(名古屋市)  
昭和43年(1968) 1月30日 逝去 63歳 心筋梗塞

略 歴

- 昭和3・ 3・ 京都帝国大学医学部卒業 外科専攻
- 4・ 10・ 京大助手
- 7・ 5・ 京大医学部講師
- 10・ 1・ 学位受領(京都帝国大学) 腫瘍のインベジン現象
- 16・ 4・ 京大助教授
- 17・ 6・ 満州医科大学教授兼医長
- 21・ 8・ 中華民国国立瀋陽医学院外科教授
- 23・ 帰還
- 23・ 9・ 名古屋女子医大教授兼名古屋市立女子専門学校教授
- 25・ 4・ 名古屋市立大学教授兼名古屋市立女子医学専門学校教授
- 25・ 9・ 市立大学病院第二外科部長兼任
- 32・ 8・ 同大学附属病院院長兼第二外科部長兼乳児院長
- 33・ 4・ 同大学医学部長
- 35・ 4・ 同大学医学部長
- 42・ 3・ 同大学定年退職  
同大学名誉教授
- 42・ 7・ 国立浜松病院長
- 43・ 1・ 30・ 逝去(心筋梗塞) 63歳



93. 藤野 守 次

明治35年(1902) 1月4日 出生(広島県)  
昭和45年(1970) 1月2日 逝去 67歳 心筋梗塞

略 歴

- 昭和4・3・ 大阪医科大学卒業副手嘱託
- 5・3～6・4・ 兼任京城帝国大学医学部嘱託
- 6・5・ 大阪帝国大学医学部副手
- 8・10・ 大阪回生病院レントゲン科長
- 12・12・ 学位受領(大阪帝国大学) レ線放射  
白血球物質の生物学的研究
- 21・4・ 大阪帝国大学医学部講師
- 22・ 第6回日本医学放射線学会宿題報告  
胸部レ線側面像の臨床的意義
- 24・3・ 大阪市立医科大学教授兼大阪市立医学  
専門学校教授
- 25・10・ 兼大阪市桃山市民病院放射線科長
- 28・ 第12回日本医学放射線学会シンポジウ  
ム出演(気管支造影法)
- 30・4・ 大阪市立大学教授兼大阪市立医科大学  
教授 大阪市立大学医学部附属病院放  
射線科長
- 33・4・ 日本医学放射線学会理事
- 35・7・ 第20回日本医学放射線学会々長
- 36・6・ 大阪市立大学医学部附属病院長
- 42・3・ 同上大学教授を退職
- 42・4・ 大阪メディカルセンター所長
- 42・9・ 大阪市立大学名誉教授
- 44・10・ 第12回国際放射線医学会副会長
- 45・1・2・ 逝去(心筋梗塞) 67歳



94. 藤 巻 時 男

明治43年(1910) 11月7日 出生(東京府)  
昭和57年(1982) 12月11日 逝去 72歳 心筋梗塞

略 歴

- 昭和11・3・ 慶応義塾大学医学部卒業
- 11・4・ 同理学的診療科助手
- 20・3・ 海軍予備軍医少尉として1ヵ月教育召  
集
- 21・ 学位受領(慶応義塾大学) 廻盲部のレ  
線学的研究
- 21・8・ 慶応義塾大学医学部助教授
- 21・8～33・9・ 同学付属温泉治療学研究所主  
任兼務
- 26・4・ 日本温泉科学々会々長
- 37・9・ 海外旅行(外務省嘱託としてブラジル,  
アルゼンチン, パラグァイ, ボリビア  
の日系移住地衛生調査)
- 43・5～45・5・ 診療エックス線技師及び診療  
放射線技師国家試験委員
- 45・ 温泉医制度審議会委員
- 45・4～46・3・ 東京大学医学部非常勤講師
- 45・7・ 慶応義塾大学医学部放射線医学教育主  
任及び教育医長
- 57・12・11・ 逝去(心筋梗塞) 72歳



95. 古 谷 滋 夫

明治24年(1891) 4月1日 出生(福岡県小倉)  
昭和30年(1955) 1月1日 逝去 63歳 出血死

略 歴

大正 3・11・ 岡山医学専門学校卒業 母校助手として病院勤務  
5・5・ 順天堂病院藤浪剛一, 後肥田七郎に師事  
7・11・ 日赤大阪支部病院レントゲン科主任  
10・1・ 小倉記念病院レントゲン科主任  
11・ 大阪土佐堀にレントゲン診療所開設  
15・1・ 慶応大学医学部理療科助手  
昭和 4・3・ 学位受領(慶応義塾大学)  
大阪築港病院  
8・5・ 大阪市港区に開業  
19・6・ 焼夷弾に被爆 手足に重篤なる火傷, 九死に一生を得郷里小倉に帰る  
27・9・ レントゲン癌にて左脚切断 左鼠蹊部に無数の転移巣あり  
30・1・1・ 逝去(大腿動脈出血死) 63歳



96. 堀 田 愼 之

明治23年(1890) 2月13日 出生(富山市)  
昭和44年(1969) 10月2日 逝去 79歳

略 歴

大正 2・11・ 金沢医学専門学校卒業  
2・11・ 海軍々医少尉 爾来30年勤続  
11・ 海軍々医学校選科学生中高橋通麿教官, 藤浪剛一教授に師事  
海軍々医少将  
舞鶴海軍鎮守府軍医長  
舞鶴海軍病院長 歴任  
昭和 5・ 学位受領(慶応義塾大学)(ヨード油の腹腔内吸収に関するレ線学的研究の実験的観察知見)  
17・12・ 予備役編入  
17・12・ 海軍々需工場(愛知航空機 KK)医務部勤務 兼 病院長  
21・10・ 終戦後富山県高岡市伏木にて外科, 産婦人科医院を開業  
41・10・ 廃業  
41・12・ 栃木県大田原市井上医院顧問  
44・10・2・ 逝去 79歳



# 97. 保 利 清

明治22年（1889）10月23日 出生（東京府）  
昭和32年（1957）11月21日 逝去 68歳 咽喉癌

## 略 歴

大正 5・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
6・6・ 陸軍二等軍医  
8・8・ 現転のまま東大副手（整形外科）レントゲン学専攻  
11・2・ 陸軍一等軍医 予備役編入  
12・2・ 東大講師 泉橋慈善病院光線科部長嘱託  
15・7・ 学位受領（東京帝国大学）本邦人の喉頭軟骨化骨に関するレントゲン学的研究 附 生体に於ける咽頭のレントゲン解剖学的知見補遺  
昭和 7・5～7・12・ 渡欧 レントゲン界視察  
8・ 東大講師及び泉橋慈善病院光線科部長 辞任 相川武雄氏に譲る  
9・ 済生会芝病院X線科医長嘱託  
12・9・ 臨時召集 臨時東京第1陸軍病院X線室診療主任 第17外科病室診療主任  
20・9・ 召集解除  
20・10・ 日赤中央病院レ線科主任（岩崎小四郎治療主幹病氣入院中辻義春副主幹外地出征中のため）  
32・11・21 逝去（咽喉癌）68歳

# 98. 前 田 清一郎

生年月日 不詳 出生  
昭和43年（1968）4月19日 逝去

## 略 歴

大正15・ 東京医専卒  
昭和 東京医専レントゲン科主任  
6・ 東大真鍋内科に研修  
11・ 学位受領（東大）人体気管枝に於ける蠕動運動のレントゲン線学的研究  
43・4・19・ 逝去



99. 榎 殿 順

明治42年（1909）1月13日 出生  
昭和44年（1969）12月17日 逝去 60歳 脳出血

略 歴

- 昭和9・3・ 熊本医科大学卒業  
理学療法科入局 亀田助教授に師事
- 12・ 応召 広島衛戍病院勤務
- 15・ 学位受領(熊本医科大学) (悪性腫瘍の物質代謝に及ぼすレ線の影響に関する実験的研究)
- 17・ 広島市にレントゲン医院開設
- 22・ 被爆のため医院再建
- 33・ 広島医師会に「榎殿賞」制定
- 36・ 広島放射線医会創立 常任幹事  
第11回ローマ国際放射線学会出席  
広島物療専門学校長, 臨床医学放射線学研究所長, 診療X線技師学校創立
- 37・ 広島医学賞を受く
- 40・11・ 日本医師会長より最高優功賞を受く
- 44・12・17・ 逝去 (脳出血) 60歳



100. 牧 野 利三郎

明治34年（1901）7月28日 出生（神戸市）  
昭和57年（1982）11月22日 逝去 81歳

略 歴

- 昭和3・3・ 大阪府立医科大学卒業
- 3・4・ 理学診療科（長橋教室）副手
- 5・12・ 徳島市市民病院レントゲン科医長
- 9・2・ 学位受領（大阪医科大学）
- 13・4・ 第6回日本放射線医学会総会 宿題報告（岡山）レントゲン写真に関する基礎的研究
- 16・3・ 徳島市民病院副院長
- 18・5・ 徳島県立医学専門学校開設 同校教授に任, 理学診療科医長
- 19・4・ 国立移管
- 19・8～20・9・ 応召
- 25・3・ 徳島医学専門学校退官
- 26・4・ 徳島市内に放射線科開業
- 28・8・  $\text{Co}^{60}\text{21Ci}$  購入 照射装置を自作
- 29・2・ 四国第1号として照射開始
- 37・8・ 牧野式断層撮影装置完成発表
- 45・1・ レントゲンテレビによる診断開始  
多年日本医学放射線学会評議員
- 46・4・ 日本医学放射線学会名誉会員
- 57・11・22・ 逝去 81歳



101. 松岡道治

明治2年(1869)11月 日 出生(山口県)  
昭和28年(1953)8月7日 逝去 83歳 肺炎

略 歴

明治30・7・ 東京帝国大学医科大学卒業  
外科専攻  
済生学舎講師  
34・3・ 東大助手より京都大学助教授へ  
35・11~39・5・ 海外留学  
38・7・ 学位受領(東京帝国大学)(胎児の骨病  
諸増補 外5篇)  
39・6・ 整形外科診療開始  
40・5・ 京都帝国大学教授 整形外科担当  
大正3・1・ 京都帝国大学教授退官  
4・5・ 大阪市東区北浜三丁目に外科医院開業  
昭和28・8・7・ 逝去(肺炎)83歳



102. 眞鍋嘉一郎

明治11年(1878)8月8日 出生(愛媛県)  
昭和16年(1941)12月29日 逝去 63歳 直腸癌

略 歴

明治37・11・ 東京帝国大学医科大学卒業  
38・1・ 東京帝国大学副手 青山内科勤務  
38・2・ 見習医官二等軍医  
39・4・ 東京帝国大学副手  
40・2・ 東京帝国大学助手  
41・2・ 東大大学院入学 物理的療法研究  
44・3・ 3カ年ドイツに留学(物理的療法研究)  
大正3・12・ 東京帝国大学講師  
4・10・ 伝染病研究所技師  
4~5頃 内科教室にて毎週2回夜間各科助手に  
レントゲン学講義  
7・8・ 東京帝国大学医科大学講師 物理的療  
法科主任嘱託  
15・8・ 東京帝国大学教授 内科物理的療法学  
講座担当  
昭和3・ 第6回日本レントゲン学会長  
8・9~9・8・ 欧米に出張  
9・ 第12回日本レントゲン学会長  
13・11・ 依願免官(定年に先だち)  
16・ 第1回日本医学放射線学会長  
16・12・29・ 逝去(直腸癌)63歳



103. 三 浦 謹之助

元治元年（1864）3月21日 出生（福島県）  
昭和25年（1950）10月11日 逝去 86歳 脳溢血

略 歴

明治20・12・ 東京帝国大学医科大学卒業  
ベルツ教師の助手となる  
22・2～25・11・ 海外留学 ベルリン, パリ  
25・12・ 東京帝国大学医科大学講師嘱託  
26・9・ 同 助教授  
28・9・ 同 教授  
28・11・ 学位受領  
大正元・8・ 宮内省御用掛  
10・2・ 皇太子に供奉渡欧  
10・2・ 東大医学部附属医院長  
13・4・ 東大停年退職  
13・7・ 東大名誉教授  
昭和3・7・ 同愛記念病院々長  
20・11・ 宮内省御用掛辞任  
24・11・ 文化勲章授与  
25・10・11・ 逝去（脳溢血）86歳  
  
その他 日本学士院会員 東京医学会々頭10年  
間 日本内科学会理事長 中央病院  
（前の同愛病院）名誉病院長など



104. 三 矢 辰 雄

明治26年（1893）7月24日 出生（愛知県）  
昭和37年（1962）10月4日 逝去 69歳 肺腫瘍

略 歴

大正4・6・ 愛知県立医学専門学校卒業  
県立愛知病院診療医皮膚科専攻  
13・3・ 愛知医科大学助手  
15・5・ 愛知医科大学助教授 物理療法部兼務  
15・10・ 学位受領（愛知医大）（結核に対するレ  
ントゲン深部療法）  
昭和3・ 第28回日本皮膚科学会総会にて特別講  
演（レントゲン深達療法）  
4・4～5・10・ 欧米各国に出張  
6・5・ 名古屋医科大学助教授  
14・4・ 名古屋帝大医学部物理療法部受持  
16・ 第41回日本皮膚科学会総会にて宿題報  
告（皮膚科領域に於ける放射線療法）  
18・9・ 附属医院分室主任  
18・11・ 名古屋帝国大学教授 泌尿器科担当  
21・9・ 附属病院物理療法科主任兼務  
25・6～29・5・ 附属医院分院長  
29・4～32・3・ 附属病院長  
29・7・ 診療エックス線技師学校長併任  
32・3・ 教授停年退職  
32・ 第45回日本泌尿器科学会総会々長  
32・6・ 名古屋大学名誉教授  
済生会愛知県病院長  
正三位勲二等瑞宝章  
37・10・4・ 逝去（肺腫瘍）69歳



105. 三宅 寿

明治39年（1906）4月25日 出生（島根県）  
昭和31年（1956）4月2日 逝去 49歳 直腸癌

#### 略 歴

- 昭和8・3・ 大阪帝国大学医学部卒業
- 8・4・ 大阪帝国大学副手 理学的診療学教室勤務
- 12・7・ 微生物病研究所嘱託診療部勤務
- 14・9・ 軍事保護院医官 傷痍軍人大阪療養所勤務
- 18・9・ 傷痍軍人白浜温泉療養所々長
- 19・7・ 大阪帝国大学医学部講師嘱託
- 20・12・ 国立白浜温泉療養所長
- 21・6・ 学位受領（大阪帝国大学）
- 22・11・ 和歌山県立医学専門学校講師嘱託
- 23・5・ 国立療養所延寿浜園長兼務
- 25・5・ 日本医学放射線学会評議員 同会幹事
- 25・3・ 文部教官 徳島大学医科大学教授
- 28・4・ 徳島大学教授（医学部）に併任する
- 29・4・ 同上に配置換する
- 31・4・ 徳島医科大学教授に併任する
- 31・4・ 第15回日本医学放射線学会総会宿題報告（病気危篤の為テープレコード使用）
- 31・4・2・ 逝去（直腸癌）49歳



106. 宮地 韶太郎

明治42年（1909）4月10日 出生（山形県）  
昭和29年（1954）11月11日 逝去 45歳 白血球減少

#### 略 歴

- 昭和10・3・ 東北帝国大学医学部卒業
- 10・7・ 東北帝国大学助手  
放射線医学研究室勤務 古賀良彦助教  
授に師事
- 15・5・ ハルビン医科大学教授
- 15・11・ 学位受領（東北帝国大学）（深部レ線写真撮影）
- 17・11・ 東北帝国大学助教授
- 18・4～20・9・ 召集
- 25・4・ 第9回日本医学放射線学会宿題報告
- 28・12・ 長崎医科大学教授
- 29・12・11・ 逝去（白血球減少）45歳



# 107. 宮 原 立太郎

明治11年(1878) 2月 日 出生(千葉県)  
昭和11年(1936) 8月 9日 逝去 58歳 レ線癌全  
身転移

## 略 歴

- 明治34・10・ 第1高等学校医学部卒業 (千葉医学  
専門学校)
- 35・9・ 東京帝国大学医科大学内科教室介補
- 38・3・ 北アメリカに留学
- 38・9・ ニューヨーク大学ポストグラジュエー  
トメヂカルスクール入学 (野口英世  
にレントゲン学研修をすすめる)
- 39・8・ ニューヨーク補習医学校入学 モート  
ン教授にレントゲン学電気療法学を研  
修 アインホルン教授に内科学を, 更  
にコロンビア大学にてピー・ジェムス  
教授に内科学を学ぶ
- 40・3・ ドイツ, フランス, イギリス経由
- 40・6・ 帰国
- 40・10・ 東京市芝愛宕町にてレントゲン専門医  
院開業
- 大正11・11・ 学位受領(東京帝国大学)(肺結核殊に  
其早期診断のレントゲン線研究及びX  
線像に基き所謂脈胞音並に小水泡音形  
成の部位に関する見解)
- 昭和2・ 聖路加病院レントゲン科部長  
東京慈恵会医科大学講師
- 11・8・9・ 逝去(レ線癌にて両腕切断全身転  
移) 58歳

# 108. 向 井 又 吉

明治16年(1883) 12月15日 出生(山梨県)  
昭和11年(1936) 2月 7日 逝去 52歳 脳溢血

## 略 歴

- 明治36・3・ 済生学舎卒業
- 36・4・ 医術開業試験及第
- 38・9・ 陸軍三等軍医
- 39・11・ 旭川区上川病院外科部長
- 40・4・ 旭川に向井病院設立 外科, レントゲ  
ン科担任
- 大正7・4・ 自費 欧米見学
- 7・9・ スイス, ベルン大学入学
- 8・7・ ドクトルメチチーネの学位受領 スイ  
ス, チューリッヒ, ドイツ, フランク  
フルト大学に転学 デッサウエル教授  
に深達療法を学ぶ
- 10・4・ 帰国
- 10・10・ 東京市本郷区追分町20にレントゲン科  
開業(東京レントゲン診療所)
- 15・6・ 学位受領(愛知医科大学)(悪性腫瘍の  
深部放射法並びに放射後の臨床的観  
察)
- 昭和7・ 上海事変に従軍
- 9・3・ 軽微なる脳溢血発病
- 11・2・7・ 逝去(脳溢血) 52歳



109. 村 地 孝

明治42年（1909）3月4日 出生  
昭和36年（1961）10月13日 逝去 52歳

略 歴

昭和10・3・東北帝国大学理学部卒業  
12・1～24・3・理化学研究所にて放射線生物  
作用の研究  
24・4・立教大学理学部教授  
26・5～28・4・理学部物理学科長  
32・4～32・5・国連科学委員会第3回会議に  
日本代表顧問としてジュネーブへ出張  
34・5・立教大学原子力研究所員兼務  
36・10・13・逝去 52歳



110. 村 松 篤 治

明治25年（1892）9月22日 出生（静岡県）  
昭和21年（1946）7月 日 逝去 53歳

略 歴

大正5・5・千葉医学専門学校医学部卒業  
5・6・千葉県立千葉病院三輪外科に勤務。同  
院レ科診療に従事 長町穆氏に師事  
7・11・千葉病院辞職  
7・12・岡山医学専門学校講師（浦野多門治氏  
の推薦にて同氏の後任となる）  
11・6・岡山医科大学専門部助教授  
11・同上辞任、東京帝国大学医学部法医学  
教室研究員として三田教授の下に血清  
化学の研究に従事す  
12・10・同教室を退室、慶応大学病院第1研究  
室に於てレントゲン学の実験的研究に  
従事す  
13・慶応義塾大学医学部助手 理学的診療  
科教室勤務  
15・1・金沢医科大学講師を嘱託 物理的療法  
科の一般診療に従事。小池才一氏留学  
中代理  
昭和3・4・学位受領（金沢医大）（レントゲン線の  
生物学的作用に関する実験的研究）  
3・4・金沢医大講師辞任  
3・8・秋田県小坂鉾山病院副院長 内科及び  
レントゲン科医長  
4・7・東京市医員一技師に任ぜらる 市立  
（現都立）大久保病院レントゲン科医長  
21・7・逝去 53歳



111. 室 馨 造

明治21年（1888）9月20日 出生  
昭和45年（1970）5月20日 逝去 81歳 脳溢血

略 歴

大正3・7・ 京都帝国大学工科大学卒業  
3・ 島津製作所入社，電気部長  
7・ 同社 退社  
8・ 大日本レントゲン製作所創立，同社長  
昭和32・3・ 発病  
35・4・ 大日本レントゲン製作所会長辞任  
45・5・20・ 逝去（脳溢血）81歳



112. 本 島 柳之助

明治25年（1892）12月11日 出生（群馬県）  
昭和32年（1957）9月14日 逝去 64歳

略 歴

大正12・3・ 東京医学専門学校卒業  
12・4・ 順天堂病院外科医員  
12・10・ 慶応義塾大学医学部理学的診療科助手  
15・2・ 渡欧，ベルリン大学放射線科に研究  
昭和3・12・ 帰国  
4・4・ 慶応義塾大学医学部講師  
5・8・ 学位受領（慶応義塾大学）（炎症におよぼすレ線の実験的研究）  
6・4・ 東京医学専門学校教授  
14・4・ 第17回日本レントゲン学会総会 宿題報告（篠井金吾教授と共同）  
25・4・ 東京医科大学教授  
26・4・ 第10回日本医学放射線学会々長  
32・9・14・ 逝去 64歳



113. 山 川 保 城

明治27年(1894) 6月5日 出生(福井県)  
昭和16年(1941) 9月26日 逝去 47歳 脳溢血

略 歴

- 大正 8・12・ 東京帝国大学医学部卒業  
東京大学分院内科勤務
- 11・ 6・ 東京帝国大学医学部講師 分院放射線  
科主任
- 11・ 8・ 癌研究会附属腫瘍治療所設置その主任  
を兼務
- 15・ 7・ 学位受領(東京帝国大学)(レントゲン  
線の白鼠睾丸に及ぼす作用に就て)
- 昭和 3・ 第6回日本レントゲン学会 宿題報告  
(悪性腫瘍のレ線治療遠隔成績)
- 8・ 欧米視察
- 9・ 癌研究会附属康楽病院落成 同放射線  
科々長
- 13・ 第10回日本レントゲン学会宿題報告(r  
単位によるγ線の測定と其臨床的応  
用)ラジウム療法の実際(南山堂)を  
著わす
- 16・ 第13回日本レントゲン学会宿題報告  
(悪性腫瘍の放射線治療量)
- 16・ 9・ 26・ 逝去(腎臓病, 脳溢血) 47歳



114. 山 中 太 郎

明治41年(1908) 10月1日 出生(福岡県)  
昭和34年(1959) 7月3日 逝去 50歳 脳出血

略 歴

- 昭和10・ 3・ 満州医科大学卒業
- 11・ 日独交換研究生としてドイツライプ  
チヒに留学
- 13・ 3・ 帰国
- 15・ 11・ 学位受領(満州医科大学)(カシンベッ  
ク氏病の本態に関する研究)
- 16・ 5・ 満州医科大学放射線科勤務, 講師嘱託
- 18・ 11・ 満州医科大学助教授 兼奉天市立結核  
病院長
- 19・ 12・ 満州医科大学教授, 放射線科部長
- 21・ 8・ 中華民国々立瀋陽医学院 放射線科主  
任教授に留用
- 22・ 10・ 中華民国放射線医学研究所長
- 23・ 1・ 帰国
- 25・ 4・ 日本医科大学教授 日本医学放射線学  
会評議員, 幹事
- 34・ 7・ 3・ 逝去(脳出血) 50歳  
(7月11日羽田出発 国際放射線医学  
会出席の予定)



115. 横井 勝 朗

明治38年（1905）11月12日 出生（京都市）  
昭和48年（1973）10月27日 逝去 67歳 胃癌

略 歴

昭和5・3・ 京都府立医科大学卒業  
5・5・ 京都府立医科大学助手  
5・11・ 同上 退職  
5・11・ 新潟県高田市高田病院レントゲン科科长  
9・10・ 同上 退職  
9・11・ 京都府立医科大学助手  
13・2・ 充員召集 大津陸軍病院入隊  
14・7・ 京都府立医科大学助手退職  
16・3・ 召集解除  
16・4・ 京都府立医科大学講師嘱託  
16・7・ 応召，第94兵站病院付  
21・2・ 召集解除  
21・2・ 京都府立医科大学講師嘱託  
22・4・ 京都府立医科大学理学的診療科副部長  
25・1・ 京都府立医科大学助教授  
26・1・ 学位受領（京都府立医科大学）レ線照射家兎四肢骨の物理学的変化に関する実験的研究  
35・7・31・ 京都府立医科大学教授同日退職  
35・8・ 済生会京都府病院 京都府八木町公立南丹病院放射線科部長嘱託  
36・4・ 京都府立医科大学客員講師  
48・10・27・ 逝去（胃癌）67歳



116. 横 倉 誠次郎

明治28年（1895）8月8日 出生（東京市）  
昭和31年（1956）7月31日 逝去 60歳 肺がん

略 歴

大正10・6・ 東京帝国大学医学部卒業  
海軍に入る  
15・4・ 東京帝国大学大学院入学（整形外科）  
昭和3・3・ 海軍々医学校教官  
3・12・ 東京築地海軍病院医長（整形外科レントゲン科）  
4・ 日本レントゲン学会評議員  
4・ 日本整形外科学会評議員  
4・10・ 学位受領（東京帝国大学）本邦成人内  
外長軸足穹窿の基準を定め扁平足の分  
類に及ぶ  
12・11・ 横須賀病院部員  
17・11・ 海軍々医学校教官  
19・5・ 海軍々医少将  
20・3・ 海軍々医学校教頭兼研究部長 東京築  
地病院副院長嘱託  
20・11・ 予備役編入  
20・12・ 厚生省医療局医官 国立東京第2病院  
長  
21・8・ 退官（公職追放令による）  
21・ 日本医学放射線学会評議員  
28・2・ 順天堂大学医学部教授  
31・7・31・ 逝去（肺がん）60歳



117. 渡 辺 完

明治21年(1888) 6月22日 出生(兵庫県龍野)  
昭和30年(1955) 5月16日 逝去 66歳 狭心症

略 歴

明治43・6・ 京都府立医学専門学校卒業  
43・7・ 日赤大阪支部病院外科  
大正2・4・ 日赤香川支部病院外科  
4・3・ 東京順天堂病院レントゲン科見学 後  
日赤大阪支部病院外科勤務, レントゲ  
ン室担当  
8・5～11・ 日赤救護員として東部シベリアに  
出征  
10・3～13・4・ 大阪島瀧病院勤務  
11・2～13・4・ 海外留学  
13・5・ 大阪電気局病院医長(外科及レントゲ  
ン科)  
14・1・ 学位受領(東北大学)(胃の運動機能の  
病理的生理補遺)  
昭和5・4・ 大阪電気局病院副院長  
9・4～9・12・ 大阪市より欧米出張  
9・7・ 第4回国際放射線医学会に日本代表と  
して出席  
14・5・ 大阪交通局病院(元電気局病院)院長  
24・9・ 同上 院長退職 大阪市嘱託  
27・4・ 大阪市北区に診療所開設  
30・5・16・ 逝去(狭心症) 66歳



118. 渡 部 求

明治24年(1891) 3月29日 出生(福島県会津)  
昭和52年(1977) 1月26日 逝去 85歳

略 歴

大正4・7・ 東京工業大学(前)電気科卒業  
4・8・ 後藤風雲堂に入社  
10・6・ 同上 取締役  
昭和4・7～5・3・ ドイツ, シーメンス社にてレン  
トゲン機械工学勉学  
6・6・ 常務取締役  
9・3・ KK 風雲堂電機製作所設立し代表取締  
役社長  
24・6・ 後藤風雲堂代表取締役社長  
29・9～29・11・ 欧州に見学旅行  
31・9・ 厚生大臣よりレントゲン装置普及向上  
に対し表彰され保健文化賞を受く  
37・8～37・9・ 欧米に見学旅行  
38・2・ 後藤風雲堂を風雲堂と改称  
40・10・ 藍綬褒章を受く  
41・4・ 勲四等瑞宝章  
52・1・26・ 逝去 85歳